

親潮

第311号
平成30年度 第1号

OYASHIO

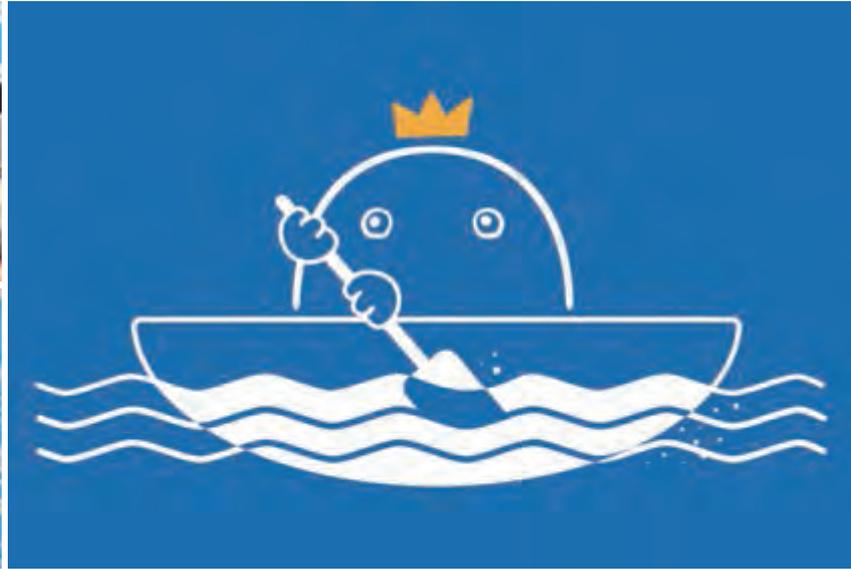
北水同窓会誌

2018

311

No.1

北水同窓会のEメールアドレスが変更になりました | ホームページをリニューアルしました
hokusuialumni@gmail.com | <http://hokusui.net>



特集 北水の今

「海の宝をめぐる学びと体験 マリン・ラーニング」 のご紹介

- 研究院長(学部長)ならびに名誉会長就任ごあいさつ
- 会員の受賞
- 退職教員あいさつ
- 追悼
- 第98回定期総会報告
- クラス会報告
- ほか

親潮

第311号

平成30年度 第1号

OYASHIO

CONTENTS

研究院長(学部長)ならびに名誉会長就任ごあいさつ 3

特集 北水の今

「海の宝をめぐる学びと体験
マリン・ラーニング」のご紹介 4安井 肇(昭55ソ) 平松 尚志(平5ソ) 宇治 利樹(平18生)
マリン・ラーニング事務局北海道大学ホームカミングデー 2018
水産学部卒業生のつどい のご案内 8

会員の受賞 9

桜井 泰憲氏(昭48ソ)/上田 宏氏(昭50ソ)/高津 哲也氏(昭63ギ)/松野 孝平氏(平20海)

退職教員あいさつ 12

今井 一郎(特別会員)/門谷 茂(昭50化)/矢部 衛(昭51ソ)/中谷 敏邦(昭52ギ)
荒井 克俊(昭51ソ)

追悼 15

齋藤 謙氏(昭29ソ)/羽田野 六男氏(昭31セ)/梨本 勝昭氏(昭36ギ)

第98回定期総会報告 18

寄稿 24

飯沼 光生(平元ソ)

書評 26

松石 隆(特別会員)

支部会・クラス会報告 27

「54年振りのクラス会」-北水増殖39会in SAPPOROの報告- / 北水会愛知県支部新人歓迎会
第34回北水会埼玉支部総会並びに懇親会 / 北水同窓会青森支部 平成30年総会・講演会・懇親会報告
北水同窓会釧路支部総会 / 北水同窓会東京支部総会報告 / 30年前の北水第17代応援団 大宴会開催
北水同窓会小樽支部総会 / 北水同窓会宮城県支部平成29年度総会開催

学位取得者 34

卒業生の就職先 35

会員の異動 36

会員死亡通知 37

親潮投稿規定・編集後記 38

お知らせ

第99回(2019年)北水同窓会 定期総会 開催予定(予告)

来年の定期総会は日本のど真ん中、名古屋にて5月25日(土)に開催予定です。

ご出席下さいますようお願い申し上げます。

翌日の日曜日には、ユニークな企画を準備中です。お楽しみに!

詳細は来年2月号でお知らせ致します。

お問合せ先

● 北水同窓会愛知県支部 支部長 山口 皓 携帯:080-6915-4567

幹事長 神保重孝 E-mail:s-jimbo@nagoya-syoji.co.jp

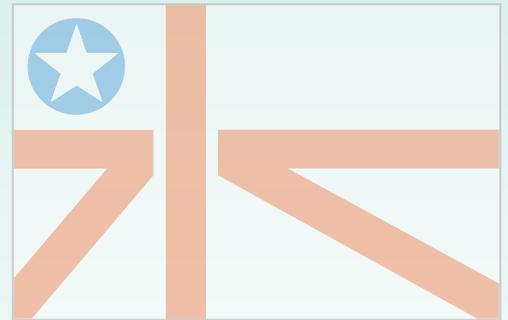
または ● 北水同窓会事務局 / E-mail:hokusuialumni@gmail.com Tel:0138-42-3681



研究院長(学部長) ならびに名誉会長就任 ごあいさつ

北水同窓会名誉会長

木村 暢夫(昭55ギ)



この度、安井前研究院長(学部長)の任期満了を受け、本年4月1日より研究院長(学部長)に就任いたしました。さらに2018年5月26日大阪で開催された98回定期総会での承認を経て、北水同窓会名誉会長に推挙されました。宜しく御願いたします。昨今の急激な社会的変動の中、我が国の大学を取りまく環境と大学が果たすべき役割は大きく変化してきました。それぞれの大学が目指す目標や役割が多様化する中、北海道大学は世界最高水準の教育研究活動が展開できる「指定国立大学法人」指定を目指し、研究力、社会との連携、そして国際協働を強化推進しています。このような時期、これらを担う職責とこれまで水産学部が築いてきた伝統の重さをあらためて痛感しているところです。

1907年(明治40年)に札幌農学校に、水産教育を体系的に行う「水産学科」が設立されてから水産学部は、2018年(平成30年)で創基111年を迎え、これまで約20,000人の優れた人材を輩出し、同窓生は海洋・水産関連分野を始め広範な分野で、産業と科学の発展に貢献しています。

現在の水産学部は、札幌農学校の精神を色濃く受け継ぐ学部と言われています。北海道大学は、1876年(明治9年)開学以来「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」そして「実学の重視」の基本理念の元、教育を培って来ました。札幌農学校開校式において、クラーク博士は、「Lofty Ambition! 高邁なる大志」をもって毅然として新しい道を切り拓いて生きることを示されました。北海道大学の基本理念の一つ「フロンティア精神」の起源です。一方、クラーク博士の夢とされる「洋上大学」は、現在多くの国際洋上プログラムへと進化し、2014年(平成26年)竣工した「静かで揺れない洋上のキャンパス」おしよろ丸V世が実践しています。2017年より歴代のおしよろ丸が長年にわたり実施してきた北太平洋、ベーリング海、北極海など亜寒帯・寒帯海域の調査研究航海を再開しました。地球温暖化の影響が深刻化している極域で環境変動と海洋生態系への影響をモニタリングするおしよろ丸の調査航海は、重要性が増していくことが見込まれます。今後、国際化が進む中水圏の持続性を目指す「水産科学」やその関連分野の研究と実習に取り組む教育プラットフォームとして、この分野で活躍する人材育成を目指した教育を推進していきます。

大学院重点化(平成12年)など幾多の大きな改組を経て、学科や研究室の名称も大きく変わりました。多くの同窓からは、現

在の分野(講座)名からは教育研究内容が分かりづらいとの声をよく聞きます。現在水産学部では、水圏生物資源をベースに持続的生産、環境保全、そして総合的な利用など、様々な科学的発見を通して、人類社会へ貢献することを教育目標としています。さらに、大学院水産科学院では、「海洋・水圏における生物資源の持続的生産」と「それらの効率的利用」、さらに「海洋生態系や環境の保全」を対象に、そこで発生する課題に対し総合的に解決できる能力を身につけることを教育目的として掲げております。そして、水産科学は、地球環境や資源、特に水圏における生物資源の再生産から利用までの過程を一つのシステムとして捉え管理することで持続的に利用することが可能であるという観点に立った「持続可能性水産科学」を掲げて教育・研究を行っています。

近年、温暖化に見られるように地球を取り巻く気候変動は加速しています。海洋に廃棄される人為活動による産業廃棄物は有限な地球の環境収容力を超え、また過剰利用されてきた水産資源は、ほとんどの主要魚種において激減しており、資源維持と再生は危機的状況にあります。何十年に1度と言われるような大規模な自然災害も毎年当たり前の様に報じられます。このような顕著な気候変動は、産業革命以降の指数関数的に増加した化石燃料の消費と人口増等によるものと言われておりますが、多くの問題の中で、地球面積の約70%を占める海洋に関する問題はとりわけ深刻であり、海洋環境と生態系、さらには「水産業の持続とその可能性」そのものに関わる問題となっています。

水産資源は消費すればなくなる化石燃料とは異なり、有効的に管理しながら利用することで将来にわたり持続的に使用可能な貴重な食料資源です。また、水産生物には人工的には生み出せない未だ未利用の機能が多く存在し、新たな発見と開発、利用には多くの可能性が秘められています。本学では、水産科学を一層進化させ柔軟で自由な発想を備えた将来の「持続可能性水産科学」を担える人材を育成し、社会に送り出すことを使命とし、北水同窓各位の御協力を頂きながら充実と発展に努めたいと思います。

最後に、同窓生皆様のご健康とご活躍、北水同窓会のますますの発展を祈念し、研究院長(水産学部長)並びに北水同窓会名誉会長就任のご挨拶とさせていただきます。

「海の宝をめぐる学びと体験 マリン・ラーニング」 のご紹介

安井 肇(昭55ゾ) 平松 尚志(平5ゾ)
宇治 利樹(平18生)
マリン・ラーニング事務局



はじめに

水産学部では約10年前から「海をめぐるサイエンス」を中心に据えて、市民、学生、経営者、行政の方々が集い、リーダー人材育成を目的に、フィールドワーク、ラボワークなどのマリンラーニングのコンテンツを開発し、産官学で連携した事業を行っていました。

北海道大学では、前身の札幌農学校時代から世界で初めて水産教育が始まり、大志を抱いて「海」に関する学術分野を切り拓いてきました。北水同窓会の皆様がいつも心に抱かれている「海」。私たちは「海」から計り知れない恩恵を受けることを知っています。

しかし、近年は豊かな「海」の恩恵を知らずに育つ若者が増えていきます。一因に、大人への移行時期である中高生時代の効率化された学校教育では、「海」の恵みを積極的に学ぶ機会が少ないという現状があります。生涯を通じ生活に「海」を取り入れ、若者が「海」について楽しみながら自ら学ぶ体験はとても重要であると考えました。

ここにご紹介する「海の宝をめぐる学びと体験 マリンラーニング」は、2016年度から日本財団(海と日本 PROJECT)のご支援を得て実施しています。本事業の目的は、日本全国の中高生を対象としています。「海」の素晴らしさを実感・体感できる教育イベントを端緒とし、それぞれが「海の宝」を探し、自発的に「海」を学ぶ機会に導き、「海」への知的好奇心を持った心豊かな若者を育成します。

海の科学は、従来の水産学の枠を超え、海の映像・音楽・絵画など芸術分野、海辺のまちや地域の歴史・文化に焦点を当てた文学・社会学などの各種文系分野、水産物や海を活用した観光分野など多彩な分野と密接なかかわりを持っています。今は、全国の中高生が「海の宝アカデミックコンテスト」に取り組み、毎年その成果を応募くれます。特に優れた10数作品が選ばれて、それら発表者は北海道大学水産学部にやって来て直接プレゼンテーションを行います。大学や水族館など海の専門家達による最終審査・評価が行われ、成果に応じて各賞が決定し、表彰されます。今年で3年目になりコンテストへの応募数は年々増加し、内容は著しく充実しています。



2017年(上段)および2018年度(下段)のイベントポスター例

これまでの事業実施経過(2016年度、2017年度)

本事業は、2016年度に開始されました。事業内容は大きく「イベント開催」と「コンテスト開催」の2つに分けられます。まず、全国各地で「海にまつわる実体験型イベント」を開催し、海への関心やふれあいが薄れている現代の子供たちに、「海」とふれあうきっかけを作りました。このようにして「海」に興味を持った子供たち、あるいはもとから「海」に興味のある子供たちに、自分なりの「海の宝」を表現していただく場として「海の宝アカデミックコンテスト2016」を開催しました。初年度は、北水教員はもとより、北水事務局、他の関連機関の皆様の御尽力により、何とか必要十分な数のイベント開催とコンテスト開催にこぎつけました。初年度ということで、慣れない中の運営となり、反省点も多くなりましたが、全てのイベントを無事終了でき、最終的に全国から29校68件のコンテスト作品(中学校8校12作



最新鋭の北大練習船に触れてみよう! 海と日本PROJECT 「北海道大学水産学部附属練習船おしよる丸」の内部を見学・レクチャー

品、高校21校56作品)の応募につながりました。その中から1次審査により優秀とされたチームが函館に招待され、五稜郭タワー会場にてプレゼンテーションによる2次審査と授賞式を開催しました。

続く2017年度では、運営委員・実行委員を中心に前年度を振り返り、多くの改善点を加えてスタートしました。全国イベントに関しては、コストを抑えながらも、より充実した内容で広範囲な地域での開催となり、4月から9月までの期間に、大阪・神戸・青森・鹿児島・千葉・静岡・北海道(紋別・札幌・千歳・函館)の各地域で、18イベントを開催しました。これに、函館で11月に開催した「海の宝アカデミックコンテスト2017」を加えた、計19イベントに参加した延べ人数は73,863名となり、どのイベントでも多くの子供たちが、熱心に海に親しむ姿が見られました。コンテストに関しては、告知活動を強化しました。ホームページ(<http://www.umicon.jp/>)、SNS(フェイスブック、Youtube)、ちらし・ポスター配布(教育機関・水族館・同窓会関係者・公共機関などを中心に1000件以上)に加え、各全国イベントにて告知を積極的に行いました。また、イベント内に直接応募に繋がるような指導を加えていただきました。ホームページ上には、各イベントの報告も含め、コンテストにも利用できる海に関わる

楽しい動画・イラストのコンテンツをできるだけ用意するようにしました。同窓生の皆様もぜひ一度、充実したホームページ(<http://www.umicon.jp/>)をご覧くださいできれば幸いです。また、文系・理系共に応募し易いように、中学・高校の部それぞれに、主に理系向けの「マリン・サイエンス部門」と文系向けの「マリン・カルチャー部門」を設けました。このような改善を加えた結果、2017年度のコンテストでは、前年度よりもはるかに多い50校159作品(473名)の応募に繋がりました。また、応募のあった地域も、前年度より12地域(11県+アメリカ)増え、国内では24都道府県となり、本コンテストの全国的な広がりを感じました。このような広がりが続くことにより、将来的にこの北水発の「うみコン」が、全国的に知名度の高い学生コンテストとなることを期待しています。さらに、2016年度と比べ2017年度は、全国イベントの参加者によるコンテスト応募が増え、当初の狙いであるイベントで海に親しむ子供たちを増やし、コンテストへの応募を促す流れが着実にできていると感じました。2017年度においても、1次審査により優秀とされたチームが函館に招待されました。北大水産学部会場にてプレゼンテーションによる2次審査と授賞式を開催し、最優秀賞4作品、優秀賞6作品、奨励賞10作品、審査員特別賞27作品が選ばれました。

海の宝を探る「下北ジオサイト」ツアー —海と日本PROJECT—
青森県立大湊高等学校2年生188名が5グループに日本ジオパーク認定の「下北ジオパーク」の各ジオサイトを巡る





サメ世界in鹿児島 海と日本PROJECT
北海道大学名誉教授 仲谷一宏博士によるサメの解剖教室

今年度の事業予定(2018年度)と今後の展望

今年度も一昨年、昨年同様に体験型イベントとコンテストの開催を予定しており、イベントに関しては6月から既に開始しています(各イベントの詳細に関してはホームページをご覧ください)。また昨年度までは、かごしま水族館、海遊館といった水族館や千葉県立中央博物館(海の博物館)、サケのふるさと千歳水族館といった海に関わる博物館と連携し、各イベントを展開してまいりましたが、今年度の新たな試みとして、札幌市円山動物園と連携することで海にあまり関心のない層の人たちにも裾野を広げたイベントを計画しています。それ以外にも、北水練習船であるうしお丸や平成26年に新たに竣工されたおしよ

ろ丸V世を使用した「海の調査や研究のレクチャー」を予定しています。コンテストに関しましても、昨年度までの応募対象である中高生に加えて、小学生高学年まで対象を広げることで、より若い時期に科学的な見方や考え方に触れてもらう機会を設けるようにしています。各イベントは、7月や8月の夏休み頃の時期に開催されるものが多いため、本号が皆様のお手元に届く頃には、大部分のイベントが終了になっているものと思いますが、皆様のご家族やお知り合いの方に本事業の内容をお伝えいただければ幸いです。



今後の展望といたしましては、より一層、若者が「海」のすばらしさを実感・体験出来る教育イベントを開催し、「海の宝アカデミックコンテスト」に導くことで海への知的好奇心を持つ心豊かな次世代の人材を育成していきたいと考えています。また体験型イベントの開催に加えて、ホームページ上での「海の学び」を提供することで、自発的な学習の機会の充実を図ります。例えば、前月号(310号)の特集記事でご紹介した「おしよ丸北洋航海」において得られた成果を動画や画像で提供することで、若い世代に水産学部が行っている研究活動に触れて



実験に参加!!函館海洋センターバックヤード研修 海と日本PROJECT
函館市国際水産・海洋総合研究センターにてバックヤードを見学

もらう機会を増やしていくつもりです。

若者の理科離れが憂慮されて久しいですが、本事業がきっかけとなって少しでも多くの方に水産科学への興味を持ってくれることを期待しています。水産科学の分野では「海洋・水圏における生物資源の持続的生産やその有効利用」や「海洋生態系や環境の保全」が対象となりますが、これらを実現するための課題を解決できる次世代の育成が必要不可欠であります。北水同窓生の皆様には、今後とも御支援、御協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



海と日本PROJECT エビ・カニをもっと知ろう!
勝浦市の海岸で見かけるエビ、カニ、ヤドカリなどの十脚甲殻類を観察し、房総半島の生物多様性を体験



海の宝アカデミックコンテスト2017 高校マリンサイエンス部門 最優秀賞
「海の砂漠からオアシスへ」鹿児島県立鹿児島水産高等学校(最下段は二次審査後の集合写真)



水産学部卒業生のつどい

講演会 水産研究所で海洋研究を行う

～プランクトンを通して 気候・生態系・水産資源の変化を見る～

講師 **中田 薫氏** (国立研究開発法人水産研究・教育機構理事)

日時 平成30年9月29日(土)

14:00～15:30

場所 学術交流会館 第1会議室

参加申込
不要



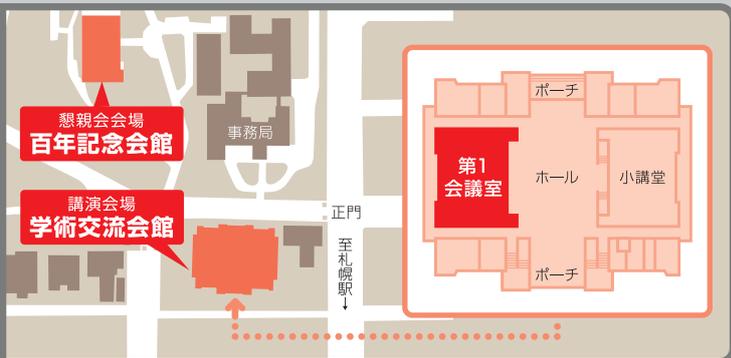
profile プロフィール

1981年水産学部水産増殖学科卒業。1983年水産学研究科修士課程修了。修了後、水産庁東海区水産研究所(現 国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所)資源部研究員として就職。2016年4月より現職。

水産資源「餌料」としての視点からプランクトンの生理生態研究を行うと共に、水産研究所で長期間蓄積されてきたデータやプランクトン試料を活用し、プランクトンの変化を通して気候変動がマイワシ等の水産資源変動に及ぼす影響解明の研究に取り組む。その後東日本大震災対応ならびに研究所が行う海洋・環境研究を統括。

国や地域の各種委員を歴任。学術会議連携会員。1992年日本海洋学会日高論文賞、1996年および1998年北太平洋海洋科学機関(PICES) Best paper、2003年水産海洋学会宇田賞受賞。農学博士。編書に「地球温暖化とさかな」、「海と魚の放射能汚染」、「Impacts of the Fukushima Nuclear Accident on Fish and Fishing ground」などがある。

会場案内図



講演会終了後、懇親会を開催します。

16:15-17:45 百年記念会館一階「北大マルシェ」

※事前申込が必要です。

HP(<https://www.hokudai.ac.jp/home2018/>)

をご覧ください。

会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING

桜井 泰憲 氏(昭48ゾ) 平成29年度 北海道科学技術賞受賞

「イカ類の再生産過程の成否に応答した
資源変動の解明と高鮮度流通に関する研究」

山村 織生(平元ギ)

本学名誉教授(元水産
科学研究院教授、現函館
頭足類科学研究所所長)
桜井泰憲氏は、「イカ類の
再生産過程の成否に
応答した資源変動の
解明と高鮮度流通に
関する研究」の功績
により受賞されまし
た。



桜井氏は、スルメイカの繁殖生態の全容を解明し、その成果を活用して海底地形と海面水温による推定産卵場の抽出し、その拡大・縮小の変化をもとに短中長期の気候変化に
応答する資源変動の予測手法を確立しました。さらに、桜井氏が開発したイカ類の採集・輸送・長期飼育手法は活魚流通にも寄与しており、活メのための神経遮断器具が市販され広く活用されている等、高鮮度化流通システムの確立を通じてイカ類の高付加価値化の道を拓きました。このようにイカ類の生態、生産から流通まで至る統合的な研究は、海洋環境変化に伴うイカ類や魚類の資源変動予測による北海道の順応的沿岸漁業の存続、そして魚介類の高鮮度化流通による漁業経営の安定化に主導的役割を果たしました。

CONGRATULATIONS ON WINNING

上田 宏 氏(昭50ゾ) 平成29年度 日本水産学会賞受賞

「太平洋サケの母川記録・回帰機構に関する研究」

工藤 秀明(平3ゾ)

本学名誉教授(元北方生
物圏フィールド科学セン
ター教授、現公益社団
法人北海道栽培漁業
振興公社技術顧問)
上田宏氏は「太平洋
サケの母川記録およ
びその回帰機構」に
関する優れた研究
業績により、平成
29年度日本水産学
会賞を受賞しまし
た。



上田先生は、昭和50年に水産増殖学科淡水増殖学講座を卒業後、同講座で大学院水産学研究科へ進学し、魚類の内分泌学に関する研究を開始されました。水産学博士の学位取得後、日本学術振興会奨励研究員および岡崎国立基礎生物学研究所特別協力研究員を経て、昭和58年に産業医科大学第2解剖学講座の助手として着任、その後講師に昇任、医学博士の取得や海外での研究も経て、平成3年には、本学部附属洞爺湖臨湖実験所の助教授、のちに実験所所長として北大に戻られました。平成13年からは北方生物圏フィールド科学センター教授になられ、平成17年からは大学院環境科学院も担当されておりました。平成27年春には63歳の定年を迎えられ北海道大学の名誉教授、そして特任教授になられ、平成29年春のご退職後は、公益社団法人北海道栽培漁業振興公社の技術顧問をされております。

上田先生は、長年にわたり太平洋サケ(サケ属魚類Genus *Oncorhynchus*)の回遊、特に母川回帰のメカニズムに関する生理学的研究を先導され、さらには先駆的な行動学的解析もサケの回遊研究に導入し、多くの新知見を得られております。中でも、サケは生まれた川のニオイを記憶して母川に帰る母川記録をすることから、その嗅覚について、電気生理学的、行動学、河川水分析等の多様な手法で研究を展

会員の受賞

開されました。その結果、記録する河川水中のニオイ成分は、各河川に特異的で、幼稚魚が記録する春と数年後親魚となった際に想起する秋に共通な河川水中の遊離アミノ酸組成が重要なことを明らかにし、その起源は河床のバイオフィームであることも突き止められています。また、母川回帰の内分泌制御に関しては、降海時には脳-脳下垂体-甲状腺系が、遡上時には脳-脳下垂体-生殖腺系が活性化することにより調節されていることを見出だされています。実際の記憶、記録に関しては、脊椎動物で長期記憶増強に関わることが知られているN-methyl-D-aspartate型グルタミン酸受容体の必須サブユニットであるNR1遺伝子発現が母川記録・想起する能力を解析するための有効な指標になることを提示されています。さらに、母川のニオイが届かない大海原から母川の近くまで回帰する機構を調べるために、ベーリング海の日本系サケ(シロザケ)や洞爺湖の湖沼型ベニザケ(ヒメマス)を用いて、バイオテレメトリーやバイオリギングといった行動学的解析を実施し、視覚等を用いたコンパス機能により方向定位し、日長変化による生物時計等感知することができる様々な感覚機能を用いてナビゲーションをしていることを提示されています。また、これらの母川記録・回帰機構に関する新知見を応用して、幼稚魚の健苗性や母川記録能を向上させることで初期生残率を高める等による太平洋サケの人工ふ化放流技術の高度化の提言もされています。

以上のように上田先生は、太平洋サケの母川回帰の研究において、国内外でも評価が高い研究成果を多数挙げられ、これまでも平成16年度日本水産学会賞進歩賞、平成22年度秋山財団賞等も受賞されており、この分野を牽引し続けられています。今回の受賞は出身研究室の関係者や研究指導していただいた卒業生にとっても誠に嬉しいことであり、上田先生の益々のご活躍を期待しています。



高津 哲也 氏(昭63ギ) 水産海洋学会 第23回宇田賞受賞

桜井 泰憲(昭48ゾ)

本研究院教授高津哲也氏は、平成30年3月24日に東京海洋大学で開催された水産海洋学会の学会賞授賞式におきまして、第23回宇田賞を受賞されました。水産海洋学会の宇田賞は、日本の水産海洋学の創始者で、かつ当学会の初代会長の名前を冠しており、1996年から、水産海洋学研究において顕著な業績を挙げた正会員および外国会員に対して1名に授与しています。高津教授は「亜寒帯域における多獲性底生魚類の生活史の解明と資源変動機構に関する研究」での優れた研究業績と水産研究分野で活躍する人材育成、加えて水産海洋学会の学会誌(和文・英文誌)の編集担当などの活動が高く評価され、今回の受賞となりました。



詳細な受賞業績は、以下の通りです。

高津哲也氏は、日本の北方漁業を支える北海道や東北地方北部において、底生魚類の再生産機構の解明に大きく貢献しました。特に、魚類の初期生残過程を、物理・生物・化学海洋学の研究成果と結び付けて解明することを中心課題として進めており、水産海洋学の進展に大きく貢献されました。また、水産海洋学会では2011年から現在まで評議員を務め、「水産海洋研究(2013~2017年)」および「Fisheries Oceanography(2013年~現在)」の編集委員も担当してきました。加えて、2016年には同誌の年間最多査読件数である14件に代表されるように、本学会発行の論文の査読も精力的に担当してきました。

勤務先の北海道大学では、1993~2016年度に、修士課程学生64名、博士後期課程学生14名を直接研究指導してきました。特筆すべきことは、練習船「うしお丸」での乗船調査には必ず自ら乗船し、洋上での海洋観測から生物採集を学生・院生に厳しくかつ

具体的に指導している点です。亜寒帯域における多獲性底生魚類の再生産～加入期は、厳冬の冬から春が多く、極めて厳しい洋上環境での教育指導と調査研究を行っています。同氏のこうした教育姿勢で育った博士後期課程修了者の全員が、大学教員や水研センター・各地の水産試験場等で研究職として着任しています。また、2009年度から現在までの9年間にわたり、本学部附属練習船「おしよろ丸」や「うしお丸」を利用した教員免許状更新講習を実施し、毎年6～16名の水産・理科教諭に「練習船による水産科学実習（3日間18時間）」を提供し、水産海洋学の普及にも貢献してきました。2011年度からは、文部科学省認定による「教育関係共同利用拠点事業」を「おしよろ丸」で推進し、東京大学大気海洋研究所や福井県立大学、岩手大学、北見工業大学、日本大学、北里大学、帝京科学大学等の学部生や大学院生に対して、洋上実習の提供にも尽力しています。

これからも、益々のご活躍を祈念申し上げます。



松野 孝平 氏(平20海) 2018年度 日本海洋学会岡田賞受賞

山口 篤 (平6ゾ)

松野孝平氏は「西部北極海における動物プランクトン群集の時空間変動に関する研究」が評価され、日本海洋学会から2018年度日本海洋学会岡田賞を受賞されました。

松野氏は平成25年に北海道大学大学院水産科学院博士後期課程を修了後、国立極地研究所の特任研究員を経て、日本学術振興会海外特別研究員に採用され、オーストラリアに留学後、平成29年から北大大学院水産科学研究院助教に着任し、現在に至っております。

近年の北極海は、過去35年間で夏季の海氷面積が3分の2程度に減少するなど、気候変動の影響が最



も顕著に表れている海域と言われています。海氷衰退はベーリング海を經由して温暖な海水が流入する西部北極海において顕著であり、当該海域生態系への影響が危惧されています。動物プランクトンは海洋生態系を構成する重要生物群ですが、北極海では海氷の存在により船舶での観測が困難であったため、西部北極海における動物プランクトン群集の研究は限定的でした。

松野氏は、西部北極海において北海道大学附属練習船「おしよろ丸」が1991/92年と2007/08年に採集した試料を検鏡解析し、相互比較を行いました。その結果、動物プランクトン現存量は1991/92年よりも2007/08年の方が高く、海水面積の減少は動物プランクトンの生産性を高めることを明らかにしました。一方、2007/08年における北極海固有の動物プランクトン主要分類群の分布は、1991/92年の調査時より北方に移動しており、海氷の衰退は北太平洋を起源とする動物プランクトン群の優勢化につながることを示しました。これらの成果は、近年の海氷衰退現象が北極海生態系に及ぼす影響を明らかにしたもので、2007～2009年に行われた国際極年における我国の主要成果の一つとなっています。

続いて、松野氏は知見の乏しかった西部北極海海盆域における主要カイアシ類4種の生活史を、周年にわたり連続係留されたセジメントトラップに捕集された試料の解析に基づき明らかにしました。この研究成果は、北極海生態系の変化予測には不可欠な基礎的な知見となっています。さらに、松野氏はベーリング海から輸送された太平洋産カイアシ類の産卵、並びに一部の卵の孵化が、西部北極海において可能であることを現場実験により確認しました。この成果は、太平洋産カイアシ類が北極海に近い将来に定着可能であることを予測している点で極めて重要な意味を持っています。

これら一連の研究成果に対して、松野氏は平成28年には国立極地研究所から「GRENE北極気候変動研究若手賞」を受賞され、平成29年には日本プランクトン学会から「日本プランクトン学会奨励賞」を受賞されております。世界を牽引するプランクトン研究者として、今後も水産科学の発展に大きく貢献することが期待されます。

さらば函館： 人生は旅 (Sturm und Drang)

今井 一郎 (特別会員)

京都を去り凌雲之志を抱いて函館の地を踏み、早や九年が夢幻の如く過ぎ退職の春を迎えました。北海道大学ではやる気溢れる多くの素晴らしい学生さん達、そして教育・研究に身を捧げる純粋で優れた人格の先生方と邂逅し、研究を飛躍的に進展できたのみならず多くの事柄を経験し学んだ事に心から感謝申



全長39センチのクロガシラカレイを釣ってご満悦の筆者(吉岡漁港、2018/6/6)

し上げます。また北海道の素晴らしい水産物と農産物は至福、お陰で巨大化致しました。国立大学の独立法人化後、前任大学の海洋系では教授の停年退官に伴って研究室が准教授と助教の2名あるいは准教授1名の体制になった後、何年も放置されるケースが生じ、研究室6つのうち3つが放置でした。学部当局の「教授人事を優先に」という要請があっても、特定の研究室(教授ともう1人在籍)で助教や准教授の採用人事が優先で行なわれました。私の在籍の研究室も放置され、准教授が在籍し続ければ、教授不在のまま研究費(運営交付金の配分)や学生の指導体制に大きな不利益状態が続くと予想されました。教授会には教授しか出席出来ないという珍しい運営であり、組織の情報伝達は機能不全でした。それでも「助教1名になれば教授人事を行う」という最低限のルールがあり、当時准教授の私の在籍は研究室の不利益にしかならないと悟った私は教授人事をさせる事を決意し、天の配剤でご縁を戴いた北海道大学に異動着任致しました。半年を過ぎて教授人事がなされ、研究室は目度く教授会に代表者を出せるようになりました。北海道大学での研究教育分野は私に良く合い、助教を含む全員参加の民主的な教授会の運営に感動しました。その後前任の組織では放置された3研究室の教員団により、新任を除く3教授を被告としたバワハラ訴訟が京都地裁に提訴、受理され、数年に亘り審理されました。その後、裁判所の斡旋で和解が成立しました。

瀬戸内海や九州の沿岸を中心に発生し養殖魚貝類を大量斃死させる有害赤潮の防除に関して、アマモ場や藻場の殺藻細菌を活用する為の基礎的研究、海底で眠る珪藻類の休眠

期細胞を海底耕耘等により人為的に有光層に導入して発芽復活させ、栄養細胞の増殖を通じて海水中の栄養塩の消費により有害赤潮の発生を抑制する為の研究を実施しました。陸水の生態系では水草に付着棲息する殺藻細菌を活用したアオコ予防に関する研究を大沼国定公園と五稜郭外濠で発展させました。海藻やアマモ、水草や葦の表面のバイオフィルム中に生息する有用な殺藻細菌を、赤潮やアオコの抑制戦略として活用する事は、近い将来環境に優しい世界の標準的な技術になると確信します。また北極海における有毒プランクトン(特に麻痺性貝毒原因種)のシスト研究は、チャクチ海沿岸域における大規模な貝毒発生の警鐘となりました。ごく最近アラスカの大学で有毒プランクトン研究が開始され、微妙な角度からアラスカ沿岸住民の食の安全に寄与出来たと思量します。

函館では単著による赤潮の専門書、及び赤潮貝毒研究の最高峰となる専門書の編集出版という大きな夢を果たしました。大学院教育では博士課程学生の学位論文審査で、著名な米国人科学者(Vera Lynn Trainer博士:国際有害有毒藻類学会会長)を副査として招聘できた事に大変満足しています。この難事業の実現は当時の事務の方々の全面支援のお陰と感謝しています。北海道大学の教育研究におけるグローバル・スタンダードの構築に向け、新たな展開を例示できたと自負します。その後も水産科学院の学位審査で海外の科学者が副査で招聘されており、軌道に乗っているようで嬉しく思います。

今春から滋賀県立琵琶湖博物館に無給の特別研究員として出入りしております。また神戸市水道局では今年度より市有の貯水池で水草を活用したアオコの発生予防研究に着手し、私はアドバイザーで参加、結果がとても楽しみです。海域では、養殖の盛んな伊万里湾や八代海などで海底耕耘を活用した赤潮の直前予防に取組みたいと考えています。

最後に北海道大学での稔り多い教育研究の生活に感謝し、本学及び栄えある水産学部の更なる発展を祈念致します。

函館の思いで

門谷 茂 (昭50化)

秋分の日が私の誕生日である。20歳の誕生日を札幌で親友らに祝ってもらったすぐ後、布団袋と少々の本などを車に積んで函館までやって来た。事前に予約したおいた格安の6畳のアパートは万代町の陸橋そばにあり、友人に手伝ってもらって荷物を運び込んだ。ところが、その部屋は何と屋根裏の



部屋で、部屋の真ん中でようやく立つ事が出来るぐらいの狭いうえに、窓が一つしか無いとんでもない部屋であった。いろいろと思案したが、こんな部屋で暮らしてはノイローゼになってしまいそうなので、友人が同じ日に引っ越した北晨寮に電話をして急遽転がり込む事にした。幸い定員は超えておらず入寮が認められることになり一安心する事が出来た。

同部屋となった4年生のO先輩は山男で、北晨寮一のきれいな好き(整理魔)として知られている人物だった。朝の通学時にはベッドのシーツを一分の乱れも無く整頓し、机の上の参考書やノートなども角を揃えて並べてから出かけて行く様を、隣のベッドから薄目を開けて感心したままやり過ごすのが日常であった。教養時代には恵迪寮という想像を絶する乱雑な住処で過ごした経験のある私からすると、野生動物が突然無菌室に放り込まれたような感慨を持ったものだった。先輩のおかげで、私は北晨寮で二番目にきれいな好き(?)と言われるほど卒業まで過ごした部屋は奇麗であるとの評価をされる事になった。先輩には感謝の一言である。

教養部での1年半のモトリアムが終わり、学部での授業は少しの時間も遊ばせないぞという大学側の決意が感じられるカリキュラムであった。水産化学科の所属した私は、午後10時を回ってもエンドレスで続く学生実験漬けの毎日が逆に学ぶ意欲をかき立て、入学前に抱いていた学生生活像を体現できている喜びのようなものを確かに感じていた。ひるがえって、現在の大学(学部)教育はアメリカ型の大学教育の権化である「シラバス」という授業計画書にシバラレであり、学生実験の密度は、私見であるが私が学生であった時代の半分以下である。基礎構築の部分に時間をかけていないのでその後の卒業研究や大学院での実験遂行がはなはだ心もとない。何とか乗り越え

なければならない重要課題だと思う。

さて、学部を卒業後そのまま大学院に進学する事となったが、修士1年生のころ最も流行っていたのは、中島みゆきの「アザミ嬢のララバイ」であった。既に取り壊されてしまっただけで跡形も無いが、木造2階建ての古い建物の奥に生協の食堂があり、本館からの渡り廊下をギシギシと踏みならして夕食を食べに行くときに必ずと言っていいほどこの曲がかかっていたことを思い出す。その歌詞やメロデーは、希望だけではない将来への漠とした不安を抱えた20台前半の若者には沁みたまものである。その後出た「時代」や「わかれうた」などを含めて多感な学生時代を過ごした1970年代の函館を自然と思い出させてくれるように、どうも私の函館は少し寂しさのある中島みゆきの歌とともにあるようだ。

退職のご挨拶

矢部 衛(昭51ゾ)

本年3月末をもって特任教授も満了し退職となり、北水での45年間にピリオドを迎えました。入学以来、学舎、職場として過ごしてきた北海道大学を卒業するにあたり、この永きの間、様々な形でのご指導、ご鞭撻を賜った北水同窓諸氏をはじめ数多く皆様に深く感謝申し上げます。



私の北大での生活は昭和47年春に学生運動の余波ため入学式もないまま始まりました。教養部の間は、学業そっちのけで溪流釣り三昧の日々を過ごし、イトウ釣りにも興じていました。学部4年生になり当時の水産動物学講座に所属し、五十嵐孝夫先生、尼岡邦夫先生、仲谷一宏先生のもとで魚類研究をスタートさせました。その後、大学院へ進み、また昭和59年秋に北水に奉職して今に至りましたが、この間、一貫して魚類の比較形態学と系統分類学の研究に取り組んできました。特に、研究対象を北海道民には馴染み深いカジカ類としたことから、北のイメージに合致した北水ならでの「魚類学」の教育・研究を実践できたのではないかと考えています。また、生物多様性、持続可能性などの重要性が認識され始めてきた頃でもあり、水産科学における生物多様性教育の一端を分類学の観点から実践してみようともしてきました。研究活動においても国内はもとより、おしよる丸に乗船してのベーリング海・北極海調査やロシア極東域、千島列島、バイカル湖などでのフィールド調査を通じて新種の魚類を数多く記載し、北東アジアの魚類の種多様性の解明に若干なりとも貢献できたのではないかと考えています。さらに、研究室に入った頃には5万点余りであった魚類標本が、現在では約22万点までに充実し、HUMZ魚類コレクション(北大総合博物館魚類学術標本)として世界的にも認知されるまでになりました。これらの標本は長年の間、著しく老朽化した標本館に保管されていましたが、北大本部のご理解のもと学内経費で新・水産生物標本館として新営して頂けることになり、平成29年3月末に完成致しました。私にとって新標本館の完成を退職前に見届けることができたのは何よりの喜びあり、魚類学研究を始め北水の水産科学のさらなる進展を大いに期待するところでもあります。永きにわたり、誠にありがとうございました。

退職教員 あいさつ

退職のご挨拶

中谷 敏邦 (昭52キ)



平成31年3月をもって、水産学部を退職しました。昭和61年に水産学部漁業学科の助手として採用され、今年で31年になりました。その間、諸先生方、事務の方々、そして北水同窓会の皆様にご指導、ご支援を受け、無事に退職することができました。在職中、一貫して海洋観測及び海洋生物の採集を行ってきましたが、冬季間の調査が中心であったため、冬の北海道洋上という大変厳しい作業環境のもと、練習船うしお丸とおしよ丸の方々に絶大なご支援をいただきました。

近年、持続可能資源の利用方法についての関心が高まっていますが、海洋に生息する食料資源としての魚類の保全是大変重要です。もっとも重要な点は次世代に生命をつなぐ「繁殖行動」を妨げないことと、生物学的漁獲生産量(ABC)を超えて漁業を行わないことであり、対象となる魚の「繁殖生態」の解明は大変重要な研究課題です。私は北海道南部噴火湾で、スケトウダラ太平洋個体群を対象として、「産卵時期」、「産卵水域」、「仔稚魚の餌生物の同定」、「仔稚魚が生息する水深の水温、塩分、および餌生物の分布密度」などを調べ、生活史初期の生残と海洋環境の年変動(1987~2012)をモニタリングしてきました(「総説」、北大紀要(Vol.59, 2017):「北大ホームページ」→「付属図書館」→「資料を探す」→「HUSCUP」→「コレクション一覧」→「紀要・研究報告集」→「水産科学院」→「Memoirs...」で電子版を見ることができます)。まだまだ未解明なことが多く、こうした調査の継続が必要であると考えています。

今後でも練習船による調査が継続され、大切な食料資源である海洋生物の持続的利用に関する貴重な知見が得られることを願っています。

函館キャンパスを離れるにあたり

荒井 克俊 (昭51ゾ)



水産学部、大学院修士課程を終え、博士課程在学中の昭和55年5月に北里大学水産学部(当時、岩手県三陸町、現在は海洋生命科学部と改称し、神奈川県相模原市に移転)の助手に採用され、アカデミックキャリアを始めた。その

後、平成元年11月に広島大学生物生産学部(広島県東広島市)助教授となり、平成11年4月に北大水産学部教授に迎えられ函館キャンパスに異動した。前任校にはいずれも約10年の在職期間であったので、ここも約10年でお別れするかと思いきや、19年(教授18年、特任教授1年)を函館で過ごすこととなった。

函館キャンパス在職中は、全身の血が逆流しそうな腹立たしいことも少なからずあったが、それに勝る楽しいことも数多くあった。在職中、優秀な同僚、国内外からの共同研究者、さらに大学院生、学部生の協力により、水産遺伝育種学の基盤となる多様かつ重要な研究を進めることができたことは大きな喜びであり、この過程で数多くの若い方々の博士・修士・学士の学位取得をお世話できたことも幸福であった。北大着任後は、引き継いだ旧発生学・遺伝学講座の学統を守りつつ、魚類の発生生物学と遺伝学を基盤とした水産分野における遺伝育種の理論と技術の体系化を図り、教育研究の一層進展させることを目的とした。しかし、本分野における技術的進歩は目覚ましく、遺伝子解析は従来のサザン法があつという間にPCR法に置き換わり、ゲル板を使っていた塩基配列の解析も、すぐにキャピラリー式の自動シーケンサが駆逐したかと思うと、次世代シーケンサの時代となった。遺伝子組み換えの是非が論じられているうちに、ゲノム編集という新技術も出現した。このような技術革新の中、時代に取り残されず、世界に伍した研究成果を出し、なおかつ人材育成を進めることは容易ではなかった。およそ、産業応用とはかけ離れたマニアックな課題に興味の対象があつたことから、常に研究費獲得に悩み、科研費申請の時期はひどく人相が悪くなった。また、「そんなことをやって何の役にたつのか。」という容赦のない問いにも悩まされつづけた。このような中、研究成果を論文として発表し、かつ本分野初の教科書「水産遺伝育種学」を編集出版し、国際的な水準で研究教育を進めることができたのは、多くの方々の協力があってこそで、心より感謝している。

水産学部着任時の教授会では「ここ水産学部は、水産研究教育の最前線であり、かつ、最後の砦である。ここが陥落したら、日本から水産科学の拠点は無くなる。そうならないために最大の努力を払いたい。」と新任挨拶をした。在任中は、何とか守り抜くことはできたが、水産業ならびに水産科学を取り巻く環境は益々厳しさを増しており、10年後、20年後の水産学部の在り様を想像することは難しい。この度、函館キャンパスを離れることとなったが、平成30年4月からは、北大札幌キャンパスの国際連携機構・特任教授を務めることとなった。今後は教育の国際化の観点から、もう少し北大に貢献するとともに、やり残した研究を完成させることは到底できないにしろ、一歩でも二歩でも進め、成果を世に問いたいと思っている。

追悼寄稿

追悼：齋藤讓先生（昭29卒）

宮田 昌彦（昭60博増）

私が齋藤讓先生の訃報を知ったのは、昨年の冬、定子様から届いた12月11付けの一通のハガキでした。そこには「平成29年4月15日、夫讓が86歳で永眠」とありました。驚きました。懐かしいものが失われてゆく気持ちでいっぱいでした。



私の脳裏には1983年の春、ライラックのつぼみが膨らむ函館の研究室が蘇りました。賓客を迎えた学生室（旧水産植物学講座）の腰掛けに大きな体をもたれ、琥珀色に染まったグラス片手に目を細めてお茶目に笑い、ことば少なげにうなづき、色白の肌が赤く高揚したやや面長で丸顔の齋藤讓先生がいました。その傍には正置富太郎、藪熙、山本弘敏の各先生がおいでになりました。ご自身の藻類研究を背景とした、相対化という学問の真髄に触れる齋藤先生のお話は、ときに蛮殻でありながら常に平易なことばで展開し、公平性と静かな調和があり、シンプルな英語を交えて異邦人をも受け入れる奥深さがありました。先生は秘めた教養主義に立脚した熱き教育者でありました。「学校で育まれた、先輩、友人との暖かい気持ちの交流こそ、学校すなわち次世代を育てる機関にとって、何にも勝る貴重な財産であり、その利点を後世へ伝える使命がある」と述べておられます。また、先生はアナログ録音のレコードに人の息づかいと暖かみを感じる細やかな感性の持ち主であり、古典派の楽曲を好み、酒をこよなく愛する美食家でもありました。その技が活きたのは、藪先生の染色体研究のために精巢をとられたイトウの醤油煮、大きな鍋をみんなで囲み、たった一口ながら淡泊で優しい味に感激したひとときでした。このような時間がゆっくり流れた水産植物学教室がありました。

先生のルーチーンは、紅藻ソゾ属 *Genus Laurencia* の分類学的研究と海藻群落の遷移に関する研究であり、それは採集からはじまりました。春、大潮の季節が巡ってくると講座をあげての採集会があり、胴付と厚手のゴム手袋を身につけ、函館山の麓、津軽海峡を臨む立待岬、少し離れた志海苔、さらに当別、木古内、そして、噴火湾に面した白尻と、まだ凍てついた岩礁に指の感覚が薄れるほどの寒さを感じて震えながら海藻を付着器からちぎり採った

ものでした。持ち帰った標本は塩抜きをして押し葉標本づくりがはじまります。先生は、フェルドマン（フランス人）考案のブリキ製で斜向板の張られたバットの水溜まりで標本のかたちを整え、台紙ごと素早く引き上げて簀の子に掛ける手際のよさがあり、標本のメモには、極端に右上がりの文字と右下がりの数字が整然と並ぶ筆づかいで、遠藤先生の海藻標本に付けられたラベルの筆跡を想起させるものがありました。また、分類形質としての生殖器官の観察は重要であり、そのときばかりは白衣を羽織り氷結マイクロームで切片をつくるのですが、組織が包まれた氷塊を力いっぱい刻むナイフがストッパーに当たり、その音が豪快でガツンガツンと学生室に響いておりました。その後、プレパレーションされた切片は、黒塗りの鋼鉄製アームのついた重いニコン顕微鏡S-Ke型で観察し、アッペの描画装置を使って生殖器官の断面を描き、論文の原稿は、PCの普及直前で、マニュアルのタイプライターで作成しておられて、部屋のドアが開いているときは、バチバチと鈍い打音が2階の廊下に響いていました。そこには宮部金吾、遠藤吉三郎の流れを汲む、クラシックな実験、研究の風景がありました。それは今、遺伝子配列を知ることと同様に、改めて学生に求められる重要な伝統の技でありましょう。

先生は、昭和5年（1930）7月10日、新潟県北蒲原郡新発田町にお生まれになりました。奇しくも先生が敬愛した日本の藻類学の大御所、遠藤吉三郎（札幌農学校）と同郷（同郡築地村笹口浜）でした。昭和25年新潟県立新発田高等学校を卒業し北海道大学水産学部水産増殖学科に入学、同29年ご卒業と同時に新潟県立能生水産高等学校に奉職され8年間教鞭をとりました。その後、同37年6月、母校北大水産学部助手となり、講師、助教授を経て、同63年4月教授となり、平成6年（1994）3月に退職されました。その間、時田郁教授のもと、「紅藻ソゾ属植物の比較形態」に関する研究で水産学博士の学位を取得（昭和42年3月、北大第527号）、その後、研究フィールドをハワイ（Dr.M.Doty）、カリフォルニア（Dr.P.Silva）、グアム（Dr.R.Tsuda）、オーストラリア（Dr.H.B.S.Womersley）に拡げて、紅藻ソゾ属の分類に関する世界的な権威として活躍されました。先生の多岐に及ぶ約30年間の学術研究は、その中心に海藻資源の持続的利用のための生物学（水産植物学）があり、その方法としての分類学（紅藻系統分類）と生態学（海藻の群落生態）がありました。

お好きであったMozart, Eine kleine Nachtmusik KV 525を墓前に捧げ、齋藤讓先生のご冥福をお祈りします。ありがとうございました。合掌。

羽田野六男先生(昭31卒)を想う

高橋是太郎(昭50卒)

北海道大学名誉教授 農学博士 羽田野六男先生が、平成29年5月15日に、満84歳でお亡くなりになりました。その何年か前に腎臓を一つ摘出され、一時はお元気になることができましたが、再び残りの腎臓も悪化、慢性腎不全で帰らぬ人となりました。



最初に腎臓の摘出手術をされたとき、私はそのことを存じ上げず、ご退院後のある日、先生にお会いしたときに、「存じ上げず、失礼致しました。今は大丈夫ですか?」と申し上げました。すると先生は、お酒をのむジェスチャーをされ、「もうすっかりこれだよ」とおっしゃったことを想い出します。悲愴感がないところが先生らしく、「しかつめらしい」ことがお嫌いな、飾らないお人柄でした。

羽田野六男先生は函館市のお生まれで、昭和31年3月に北海道大学水産学部水産製造学科をご卒業後、同大学大学院水産学研究科水産学専攻修士課程を修了されました。財団法人水産科学研究奨励会研究助手を経て、昭和35年3月北海道大学水産学部助手に採用、昭和49年1月東京大学より農学博士の学位を授与されました。昭和50年7月に北海道大学水産学部助教授、昭和61年4月同教授に昇任され、平成8年3月停年により北海道大学を退官されました。その後、平成9年4月に北海道女子大学(現在は北翔大学)人間福祉学部教授に採用され、平成18年5月まで務められました。この間、北海道大学評議員、北海道大学水産学部水産食品学科長を歴任され、北海道女子大学・北海道浅井学園大学においては、人間福祉学部長、大学院人間福祉学研究科長、副学長を務められる等、大学での教育と研究、さらに管理運営の面においても大きなご貢献をされました。

先生のご専門は水産食品学ですが、ナガズカ魚卵の毒成分の構造解析を世界に先駆けて行われ、次いで多獲性魚類の高度利用に関する研究、特に魚肉修飾タンパク質の機能性に関する研究を行い、有用な機能特性を明らかにされました。さらに、ブナ化に伴う秋サケの

肉質劣化機構を解明するとともに、網羅的にサケ科魚類可食部の生化学的データを取得して、サケ科魚類の有効利用に大きく貢献されました。また、水産脂質の改変に関する研究も行き、水産食品に係る研究の発展にご尽力されました。このように、先生は基礎から実学、さらには現場への応用と幅広く研究を重ね、この間多くの後進を育てられました。そのご功績はまことに大きなものです。

大学以外では、昭和55年4月に社会福祉法人函館カトリック社会福祉協会理事にご就任、平成17年4月には理事長に選任され、平成24年5月に後進に理事長職を譲られました。この間先生は、「知的障害児通園施設うみのほし学園」を「児童発達支援センターうみのほし」への改築と落成、また、幼保連携型の「認定こども園いまかね」の新園舎建設及び開設にご尽力されました。先生のこのような無償での社会活動には頭が下がる思いです。しかし、斯様な社会福祉的なご活躍ぶりからは、想像がむずかしいほど、先生は気取らないパーソナリティーで、いつもざっくばらんに人と語られ、敷居を低くすることが大変上手な先生でした。

先生との思い出では、八雲町で入手した100尾の秋サケの搬送と、それらの体表撮影のことが懐かしく思い出されます。当時は秋サケの肉質と体表性状との関係を調べておりましたが、私も共同研究者の一人として、体表の画像データを取り込んで、肉質の化学的データと、体表面の特徴との相関性を探っておりました。ところが、トラックの荷台に八雲町で入手した秋サケを並べて函館まで搬送している間に、秋サケの体表が、荷台表面の格子状の凸凹滑り止めに接触して、その形状通りの縞模様になってしまいました。その結果、かなりの数の、体表画像データを破棄せざるを得なくなった次第です。そのサンプリングのときは、研究室がほとんど総出で、前の晩から先生と研究室の学生の大半が参加した泊まり込みの一大イベントでしたが、就寝時のことを懐かしく思い出します。番屋に寝袋を並べて、「おやすみ」という段になったとき、どういふ訳か羽田野先生だけが皆とは反対に、頭を皆の足側にして横になりました。皆「どうして??」と思いましたが、消灯して間もなく、その理由が明確にわかった次第です。数分後、ZZZZZ ZZZZZ ZZZZZ.....このことも、今となっては懐かしい思い出です。私は現在、カーリングで有名になった北見市に住んでおりますが、所用で函館に行ったとき、先生のご自宅付近の柏木町を通ると、タイムスリップして先生に会えそうな気分になります。これも敷

居が低かった先生のパーソナリティーが、そのような気持ちにさせるのでしょう。

ここに先生の長年にわたるご厚情に対して改めて厚く御礼申し上げ、大学へは勿論のこと、社会福祉へのご貢献にも感謝しつつ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

梨本勝昭先生(昭36キ)を偲ぶ

高木 力(平元キ)

本学名誉教授水産学博士梨本勝昭先生が平成30年3月1日逝去されました。享年79歳でした。突然の訃報に接したのは、出張先での宿に戻ろうとしていたときのこと、本学平石智徳元教授からの電話連絡でそれを知ることになりました。先生ご逝去の報は、あまりにも衝撃的で、すぐにはその事態を飲み込むことができずに電話越しでもう一度問い直すほかありませんでした。ご自宅で急逝されたとのことですが、先生らしく最期はどなたにも迷惑を掛けまいと思われていたのかもしれない。



3年前に私が北大水産学部水産工学講座の教員として着任した際、旧漁具設計学講座の先生方とホームパーティーでお顔を合わせる機会がありました。少しお歳を召された印象はあったものの元気なお姿を久しぶりに拝見したところでしたが、それが梨本先生と直接お目にかかる最後の日となってしまいました。もう少し先生と深いお話しをしていれば良かったと思うと無念でなりません。

梨本先生は昭和13年に北海道にお生まれになり、昭和36年3月に北海道大学水産学部漁業学科を卒業され、同年5月より同学科漁具物理学教室の教務員に採用された後、昭和37年に助手、昭和44年には本学水産学部旧漁具設計学講座講師を経て助教授を務められ、平成元年からは同講座の担当教授として、また平成12年の大学院重点化後は大学院水産科学研究科生産システム学講座水産施設工学分野の担当教授として、通算40年余りの長きにわたり北海道大学に勤務され、教育と研究そして産業界に多大なる貢献をされました。また、

日本水産学会や日本水産工学会では各種委員、委員長、評議員、理事や副会長を歴任され学会の発展に努められました。これらの功績に対して平成14年に北海道大学から名誉教授の称号を受けられています。

梨本先生は永年にわたり漁具設計学の教育・研究に尽力してこられました。なかでも漁具の漁獲機構を解明する研究について意欲的に取り組んでこられました。特に「刺網の漁獲機構に関する研究」は、対象魚と漁具との力学的関係を漁具のダイナミクスと魚類の行動や形態との関係から科学的に捉えたもので、一連の研究成果は内外から高く評価され昭和56年に日本水産学会田内賞が授与されています。講座の歴代の先生方が、航空学科や物理学科ご出身であったこともあり生物行動を理論的な物理過程を踏まえながら解明するスタイルは梨本先生にも継承され、「魚の尾鰭振動数と遊泳速度との関係」などの生体力学的研究も古くから展開してこられました。これらの研究は学生時代の筆者の好奇心を強く刺激し、当該講座に所属するきっかけにもなりました。現在でも筆者の研究室でバイオメカニクス的研究が実施されていることを考えると、このDNAは連綿と教え子達に受け継がれているように思います。しばしば「面白そうだ。この道楽的な研究。やってみようや。」と興奮気味に学生に語りかけていた先生の姿が目には焼き付いています。大学でしかできない研究に対して強い意欲を持ち続けられていた先生は私達にとって魅力的でもありました。その一方で、北海道沿岸のローカル資源について漁具の漁獲特性をいかした資源管理型漁業を提言されるなど、地域漁業への貢献も常に意識され、産業科学としてのスタンスを忘れることなく社会実装することの重要性も説いてこられました。大学研究の果たす役割の重要性を優れたバランス感覚で私達に教授していたように思います。バイタリティーに溢れ、豪放磊落な気性の印象を受ける先生でしたが、常に他人に対して細かな気配りを忘れない先生でもありました。

毎年恒例の五稜郭公園での講座の花見に先生をお招きすることはもう叶いません。先生から学んだことを、筆者は後進達に伝えることがまだ充分できていないように思いますが、気が向いたときにも天国から講座卒業生の活躍の様子をご覧頂ければと思います。

梨本先生。ありがとうございました。ゆっくりお休みになって下さい。

謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

北水同窓会総会の報告

- 開催日時：平成30年5月26日(土) 15時00分より
- 会場：うおまん中之島店 トップラウンジ31

式次第

定期総会

- 開会の辞……………副幹事長 足立伸次(昭55ゾ)
- 同窓会長挨拶……………横山 清(昭35エ)
- 名誉会長挨拶……………安井 肇(昭55ゾ)
- 議長選出
- 議案第1号 平成29年度事業経過報告および会計決算報告……………幹事長 水田浩之(昭61ゾ)他
- 議案第2号 平成30年度事業計画および予算案……………幹事長 水田浩之(昭61ゾ)他
- 議案第3号 会則の一部改正案……………幹事長 水田浩之(昭61ゾ)他
- 議案第4号 準会員の認定について……………幹事長水田 浩之(昭61ゾ)他
- その他
- 閉会の辞……………副幹事長 足立伸次(昭55ゾ)

懇親会

- 開会の挨拶……………大阪府支部顧問 大村泰治(昭51食)
- 来賓紹介…北大水産科学研究院長 木村暢夫(昭55ギ)
北海道大阪事務所長 安田直樹
北大関西エルム会長 伊藤靖久
農学同窓会関西理事長 三津正人
愛知県支部長 山口 皓
京滋支部長 近藤忠浩
和歌山県事務局長 丸山清重
兵庫県支部長 高木英男
- 来賓代表あいさつ……………木村暢夫(昭55ギ)
- 乾杯……………水田浩之(昭61ゾ)
(歓談・抽選会)
- 総会開催地引継ぎ…愛知県支部長 山口 皓
- 閉会挨拶……………大阪府支部顧問 大野正浩(昭36セ)
(寮歌)

平成29年度北水同窓会第98回総会は、平成30年5月26日午後3時から大阪市北区中之島の「うおまん」で開催されました。

足立副幹事長の開会の辞で始まり最初にこの一年の物故者に黙とうを捧げました。

日帰りで札幌から駆けつけていただいた横山清北水同窓会会長(昭35エ)、名誉会長の安井肇前研究院長に挨拶をいただいたあと、議長に大阪府支部長の佐々木(昭56化)が選出され議事進行となりました。

水田幹事長、各部(庶務部、編集部、組織部、会計部)幹事より29年度事業会計(監査)報告・30年度事業計画予算案、30年度の役員改選、次年度開催地、審議承認され終了となりました。

(大阪府支部総会を挟んで)

大阪府恒例の講演会が

「Cerezo Osaka Part II(W杯への道)」の演題で元セレッソ大阪社長の藤田信義氏(昭48ギ)より講演が行われました。

終了後恒例の記念撮影(90人が入ったの記念撮影が行われ)を終え次は懇親会の開会です。

来賓を代表して木村暢夫新名誉会長(研究院長)より大阪府支部の再興のシンボルである「おしよる丸」のお話もいただき懇親会がスタートしました。

各年代ごとのテーブルでのお互いの懐かしい話から交流の輪がどんどん広がっていきました。

また、大阪府支部を長い間支えていただいた故北出弘氏(昭52ギ)の追悼文を隠岐島より出席の三橋正孝氏(昭53ギ)よりいただきました。

北大グッズが当たる大抽選会で大いに盛り上がり、次年度開催の愛知県の山口支部長へ北水旗の引継ぎを無事終え、大野正浩氏(昭36製)の閉会挨拶で中締めとし、植松高志(昭48法)北大関西同窓会会長の「都ぞ弥生」で30人近い平成卒の若い同窓生とともにお開きとなりました。

大阪府支部 支部長 佐々木雅人(昭56化)



■出席者

〈来賓〉

植松 高志 (昭48法) 北大関西同窓会会長
 伊藤 靖久 (昭42工学) 北大関西エルム会会長
 三津 正人 (昭45農) 札幌農学同窓会関西支部理事長
 安田 直樹 北海道大阪事務所所長

〈お客様〉

遠藤 彰三 (昭37工学) 北大関西同窓会相談役
 間中 俊夫 (昭37工学) 北大関西同窓会相談役
 天知 輝夫 (昭38農) 札幌農学同窓会関西支部理事
 和田 武夫 (昭40農) 札幌農学同窓会関西支部前理事長
 日沖 勲 (昭40農) 札幌農学同窓会関西支部副理事長
 北出 祥子 故北出弘氏(昭52ギ)奥様

〈支部代表〉

山口 皓 (昭44エ) 愛知県支部長
 近藤 忠裕 (昭54化) 京滋支部長
 丸山 清重 (昭55ゾ) 和歌山事務局長
 高木 英男 (昭59ギ) 兵庫県支部長

〈北水同窓会本部・教官〉

横山 清 (昭35エ) 会長
 安井 肇 (昭55ゾ)
 木村 暢夫 (昭55ギ)
 足立 伸次 (昭55ゾ)
 岸村 栄毅 (昭60化)
 水田 浩之 (昭61ゾ)
 高木 力 (平元ギ)
 大西 広二 (平元ギ)
 笠井 亮秀 (特別会員)

〈会 員〉

大野 正浩 (昭36セ)
 斉藤 毅 (昭36ギ)
 深谷 勲 (昭36セ)
 吉川 圭一 (昭44エ)
 上田 稔 (昭45化)
 入江 和彦 (昭45ギ)
 久保田幸一 (昭45化)
 山仲 春男 (昭46食)
 西川 一義 (昭46ゾ)

島田 好彦 (昭47ギ)
 富田 整 (昭48化)
 岡本 洋一 (昭48ギ)
 藤田 信良 (昭48ギ)
 石田 真 (昭48ギ)
 今西 聖貴 (昭50ゾ)
 田中 文夫 (昭50食)
 室井 智子 (昭50食)
 中川 武司 (昭50ギ)
 玉置 純 (昭51ギ)
 田中 教幸 (昭51化)
 大村 泰治 (昭51食)
 中 進作 (昭53化)
 浦井 二郎 (昭53化)
 三橋 正孝 (昭53ギ)
 金子 哲郎 (昭54食)
 神保 重孝 (昭54ギ)
 石田 浩平 (昭54食)
 堀口 泰司 (昭55ゾ)
 殿井 鉄夫 (昭55ゾ)
 中村 正登 (昭55化)
 佐々木雅人 (昭56化)
 大橋 人司 (昭56ギ)
 佐藤 信光 (昭57化)
 佐々木寿博 (昭60化)
 中田 邦彦 (昭61食)
 藤井 英嘉 (昭61ギ)
 村田 泰克 (昭62ギ)
 福永 健治 (昭63食)

吉田 幸治 (平元ギ)
 加藤 潔史 (平元ギ)
 堀越 光晴 (平2ギ)
 吉村 直孝 (平3ゾ)
 川邊 一郎 (平3ゾ)
 林田 健 (平3ギ)
 釜谷 明 (平3食)
 森 敏彰 (平4ギ)
 若林 真由 (平5食修)
 辰巳 昌弘 (平9食)
 道津 大輔 (平11資)
 大西 寛明 (平12資)
 藤原 匠逸 (平13生)
 尾上 律子 (平14資)
 中村 拓真 (平15シ)
 関根 慶彦 (平18資)
 櫻井 遥平 (平19生)
 須田 健太 (平19生修)
 小倉優一郎 (平20生)
 三枝 武蔵 (平21資)
 内田 廉 (平21海)
 山本 貴志 (平23資)
 李 大英 (平25資)
 高岸 愛実 (平27海)

■総会次第

1. 開会の辞 副幹事長 足立 伸次(昭55ゾ)
2. 議長選出
3. 議案第1号
平成29年度事業経過報告および会計決算報告
(1) 一般経過報告 幹事長 水田 浩之(昭61ゾ)
(2) 庶務部報告(資料1) 庶務部 高木 力(平元ギ)
(3) 編集部報告(資料2) 編集部 大西 広二(平元ギ)
(4) 組織部報告(資料3) 組織部 高木 力(平元ギ)
(5) 会計部報告(資料4) 会計部 大西 広二(平元ギ)
(6) 会計監査報告 会計部 大西 広二(平元ギ)
4. 議案第2号
平成30年度事業計画および予算案
(1) 平成30年度役員改選案(資料5) 庶務部 高木 力(平元ギ)
(2) 平成30年度事業計画案 幹事長 水田 浩之(昭61ゾ)
(3) 第99回(平成30年度)定期総会開催地(愛知)について 幹事長 水田 浩之(昭61ゾ)
(4) 平成30年度予算案
1. 会計部予算案(資料6) 会計部 大西 広二(平元ギ)
2. 編集部予算案(資料7) 編集部 大西 広二(平元ギ)
3. 組織部予算案(資料8) 庶務部 高木 力(平元ギ)
5. 議案第3号
会則の一部改正案(資料9) 幹事長 水田 浩之(昭61ゾ)
6. 議案第4号
準会員の認定について 幹事長 水田 浩之(昭61ゾ)
5. その他
校友会エルムへの北水同窓会名簿情報の提供について 庶務部 高木 力(平元ギ)
6. 閉会の辞 副幹事長 足立 伸次(昭55ゾ)

■平成29年度 庶務部報告(資料1)

- 1) 新入会員数

海洋生物科学科	62名
海洋資源科学科	50名
増殖生命科学科	56名
資源機能化学科	54名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修士	6名
博士	4名
合計	232名
- 2) 本年度物故者(平成29年度親潮掲載分)

正・準会員	100名
名誉、特別会員	1名
合計	101名
- 3) 会員現在数(3月10日現在)

正・準会員総数	15,567名
物故正・準会員数	3,384名
正・準会員現在数	12,183名
(内準会員数)	(14名)
特別会員数	72名
会員数合計	12,255名
- 4) 新入会員を含めた会員現在数(3月10日現在)

合計	12,487名
----	---------

■平成29年度 編集部報告

(親潮発行)(資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	309号	平29年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	310号	平30年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,500	1,000,000	※1
	合計		64	17,000	2,000,000	
決算	309号	平29年9月25日	本誌 32頁 (内カラー8頁)	8,500	929,934	※1
	310号	平30年3月5日	本誌カラー 24頁 (内カラー7頁)	8,500	865,674	※1
	合計		56	17,000	1,795,608	

※1 印刷会社:南三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

■平成29年度 組織部報告

(名簿会計)(資料3)

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,809,266	1,809,266	
	一般会計より繰入	1,200,000	1,200,000	名簿積立金
	名簿広告料	1,500,000	1,080,000	
	受取利子		12	
	合計	4,509,266	4,089,278	
支出	次年度繰越金	3,500,000	3,591,432	3500部
	次年度繰越金	300,000	287,000	
	次年度繰越金	709,266	210,846	
	合計	4,509,266	4,089,278	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 210,846円)

■平成29年度 会計部報告 (資料4)

1) 平成29年度 一般会計決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要	
取 入	前年度繰越金	1,387,434	1,387,434	1922名 予算2100名	
	会費	8,400,000	7,858,000		
	親潮広告料	180,000	240,000		
	雑収	100,000	199,119		
	合 計	9,711,435	9,999,056		
支 出	親潮印刷費	2,000,000	1,795,608	(資料2)親潮 発送費2回分含む 大阪開催	
	通信・運搬費	1,600,000	1,511,826		
	総会旅費	700,000	700,000		
	組織強化費	800,000	665,454		
	ホームカミングデー経費	200,000	109,700		
	備品費	0	0		
	消耗品費	180,000	199,403		
	会議費	30,000	30,000		
	振替手数料	180,000	182,645		
	事務嘱託費	2,320,000	2,313,578		
	備人費	70,000	77,000		
	HP維持費	80,000	75,600		
	雑費	20,000	23,045		
	OA機器整備費	50,000	50,000		積立 (資料3)
	名簿会計へ	1,200,000	1,200,000		
予備費	637,434	0			
次年度繰越金		752,314			
合 計	10,067,434	9,684,553			

収支差引額(平成30年度に繰越)752,314円
(繰越金の内訳:銀行預金 663,754円、現金88,560円)

3) 平成29年度 特別会計決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要
取 入	前年度繰越金	19,315,899	19,315,899	
	定期預金(マリンバンク)利息		926	
	合 計	19,315,899	19,316,825	
支 出	次年度繰越金	19,315,899	19,316,825	
	合 計	19,315,899	19,316,825	

○平成29年度 特別会計資産内容

項 目	資 産 額	摘 要
郵便定額貯金2口(新規)	8,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	10,936,619	
現金	206	
合 計	19,316,825	

2) 平成29年度 OA機器整備費(積立)決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要
取 入	前年度繰越金	62,807	62,807	
	一般会計より積立	50,000	50,000	
	合 計	112,807	112,807	
支 出	カラープリンター買替		56,000	
	次年度繰越金	112,807	56,807	
	合 計	112,807	112,807	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 56,807円)

■会計監査報告

北水同窓会の平成29年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

1. 監査対象期間 自 平成29年3月11日
至 平成30年3月10日
2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

平成30年3月14日

監 事 河原武則 

監 事 清水晋 

以上

平成30年度 本部常任幹事直通電話番号

(熊本) 安田 光(昭58食)
 (大分) 武田 晴美(々56ギ)
 (宮崎) 香川 浩彦(々51ゾ)
 (鹿児島) 松岡 達郎(々52ギ)
 (沖縄) 渡辺 利明(々52ゾ)
 (韓国) 李 春雨(平3博ギ)
 (中国) ○田 元 勇(平22応博)

市外局番(0138)

幹事長 水田 浩之(昭61ゾ) 40-5534 編集部 工藤 秀明(平3ゾ) 40-5602
 副幹事長 ○岸村 榮毅(昭60化) 40-5519 ○山村 織生(平元ギ) 40-8861
 庶務部 ○丸山 英男(平元化) 40-8813 組織部 ○河合 俊郎(平12生) 40-8848
 山本 潤(平5ギ) 40-8017 石原 千晶(平22海生) 40-5548
 会計部 大西 広二(平元ギ) 40-8845 事務局 吉田 秀美 42-3681
 ○松野 孝平(平20海) 40-5635

■平成30年度 会計部予算案 (資料6)

1) 平成30年度 一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
取入	前年度繰越金	752,314	1,800名見込み
	一般会計より繰入金	7,200,000	
	親潮広告料	3,000,000	
	雑収入	240,000	
		100,000	
	合計	11,292,314	
支出	親潮・印刷費	1,940,000	(資料8) 親潮発送費(2回分)含む 愛知開催※
	通信・運旅費	2,500,000	
	組織強化費	700,000	
	ホームカミングデー経費	700,000	
	備品費	150,000	
	消耗品費	30,000	
	会議費	180,000	
	振替手数料	180,000	
	事務嘱託費	2,320,000	
	P雑人費	70,000	
	H雑持費	80,000	
	OA機器整備費	20,000	
	名簿会計へ費	50,000	
	予備費	1,200,000	
	1,142,314		
	合計	11,292,314	積立(資料9)

※総会補助30万円、本部役員会補助8万円、卒業祝い品8万円を含む。

2) 平成30年度 OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額	摘要
取入	前年度繰越金	56,807	
	一般会計より積立	50,000	
	合計	106,807	
支出	次年度繰越金	106,807	
	合計	106,807	

3) 平成30年度 特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
取入	前年度繰越金	19,316,825	
	合計	19,316,825	
支出	一般会計へ	3,000,000	
	次年度繰越金	16,316,825	
	合計	19,316,825	

○平成30年度 特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定額貯金2口	5,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	10,936,619	
現金	206	
合計	16,316,825	

■平成30年度 編集部予算案 (親潮発行) (資料7)

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
309号	平30年8月末(7月10日)	本誌 32頁(内カラー7頁)	8,300	970,000	※1
310号	平31年2月末(1月10日)	本誌 32頁(内カラー7頁)	8,300	970,000	※1
	合計	64	16,600	1,940,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

■平成30年度 組織部予算案 (名簿会計) (資料8)

	項目	予算額	摘要
取入	前年度繰越金	210,846	名簿積立金
	一般会計より繰入金	1,200,000	
	合計	1,410,846	
支出	次年度繰越金	1,410,846	
	合計	1,410,846	

■議案第3号 会則(第1章2条)の改正案 (資料9)

北水同窓会会則の一部について、下表右欄(「現行」欄)を、同表左欄(「改正後」欄)のように改正する。

※下線部分は、改正箇所を示す。

改正後	改正前
<p>第1章 総則 (略)</p> <p>第2条 本会を北海道函館市港町3丁目1-1 北海道大学水産学部に置く。</p> <p>第2章 目的及び事業</p> <p>第3条 本会は北水同窓会本部及び各地に設置された支部との緊密な連携のもと会員相互の親睦を図り知識の交換をなし、進んで水産科学の進歩と産業の発展に寄与することを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>附則</p> <p>第25条 本則は平成27年4月1日より実施する。</p>	<p>第1章 総則 (略)</p> <p>第2条 本会の本部を北海道大学水産学部に置き支部を便宜の地に置く。</p> <p>第2章 目的及び事業</p> <p>第3条 本会は会員相互の親睦を図り知識の交換をなし、進んで産業の発展に寄与することを目的とする。</p> <p>(略)</p> <p>附則</p> <p>第25条 本則は平成27年4月1日より実施する。</p>

ソロモン諸島でのコミュニティ主体の沿岸資源管理の活動支援

飯沼 光生(平元ゾ)



マラウ地区CBRMワークショップ参加者と一緒に

2017年から3年間に亘り、国際協力機構(JICA)の短期専門家として、ソロモン諸島の漁業・海洋資源省(漁業省)に派遣されています。「コミュニティ主体の沿岸資源管理・利用による生計向上アドバイザー」として、ソロモン諸島と日本を行き来して、現地活動に取り組んでいます。

ソロモン諸島海域は、カツオやマグロの好漁場として知られ、南太平洋の中では水産資源が豊富な漁場です。沿岸コミュニティはこの水産資源の恩恵に預かり、貴重な動物タンパク源として食しています。しかし、人口増加による漁獲圧の高まりや、森林伐採による土砂流入などによる海洋環境の悪化は、沿岸域の水産資源に負の影響を与えています。特に、国際市場で高値で取引される、ナマコ、タカセガイ(貝ボタン材料)、ヤコウガイ(螺鈿細工材料)などは、現金収入を

求めて無秩序に収穫する事態が起きており、これらの天然資源の枯渇は非常に深刻です。

ソロモン諸島は数多くの離島で構成されますが、道路、港湾、空港などのインフラ整備は非常に遅れており、離島への往来は小型ボートに頼るしかありません。そのため、漁業省職員が全国を巡回し、各地の事態に対応するのは現実的ではありません。そこで、水産資源の所有者である地域コミュニティが、自発的に水産資源の漁獲・収穫を調整し、水産資源を管理・保全することが奨励されます。この取組みを「コミュニティ主体の資源管理(CBRM:Community-based Resource Management)」と呼びます。コミュニティが漁獲・採集量を記録したり、漁獲・収穫できるサイズを決めたり、禁漁期や禁漁区を設定・管理したりなど、コミュニティによる主体的な水産資源管理の実施は、漁業省の重

点課題です。

私が取り組むJICAのCBRMプログラムでは、コミュニティ自身が水産資源の管理計画を作成し、自主的な水産資源管理の実施を働き掛けることを目標にしています、そのため、徹底的な「コミュニティ参加」を基本とします。漁業省がコミュニティを指導・啓発するだけでなく、コミュニティ住民の相互の学びを後押しすることがより重要と考えます。

昨年(2017年)9月、ガダルカナル州東部・マラウ地区で「CBRM計画策定ワークショップ」を開催しました。マラウ地区コミュニティは、漁業省やドナーの支援により、海洋保護区によるナマコ資源の繁殖・回復に取り組んでいます。このワークショップには、ガダルカナル州西部・ティアロ湾のコミュニティ代表数名も参加し、マラウ地区の資源管理活動を視察し、CBRMの先進事例を学びました。また、マラウ地区とティアロ湾の両コミュニティが共同で、コミュニティが今後取り組むべきCBRM活動について、ワークショップ形式で議論しました。漁業省職員はファシリテーターとして、相互に議論しながらコミュニティ参加者の意見を引き出し、カードに書き出し、彼らの意見を整理していきます。このような住民参加型の計画立案により、上から目線の指導ではなく、同じ目線に立ちながら、コミュニティの力の引き出していきます。

上述したガダルカナル州西部・ティアロ湾は、首都ホニアラから小型ボートで3時間ほどにある、500人ほどの小さな漁村です。陸路はなく、電気はなく、携帯

の電波も届かず、近代的な社会から隔離されています。この国のほとんどの漁村では、物理的に近代社会の恩恵を受ける機会がありません。しかし、豊かな自然資源を活かし、伝統的な自給自足の静かな生活を営んでいます。漁業省は、資源管理に熱心で関心が高いことから、CBRM推進の対象地として、このティアロ湾を指定しました。JICAプログラムでは、典型的な漁村であるティアロ湾を対象として協力活動に取り組み、CBRMモデルサイトとして育成することを目指しています。

昨年10月、ティアロ湾にて「CBRM計画策定セミナー」を開催しました。マラウ地区のワークショップ結果を踏まえ、ティアロ湾としての具体的なCBRM活動について、コミュニティ住民と検討しました。ワークショップ形式でテーマ別に討論し、コミュニティ自身で回答を探し、CBRM活動計画を仕上げました。現在、コミュニティは真剣に今後の取り組みに向き合っています。

JICAプログラムでは、コミュニティ参加を軸とした、CBRM活動の計画策定とその実践支援を継続的に実施したいと考えています。しかし、日本人専門家1名のプログラムのため、出来ることは限られます。有り難いことに、昨年11月に北大水産OGの松原花さん(旧姓:藤井(平25海資))が水産開発の青年海外協力隊として漁業省に赴任して、CBRMプログラムで活躍しています。色々な方々のご協力・ご支援を得ながら、現地活動を進めたいと思います。

食中毒検査なら信頼と実績の中山薬品商会へ 一検体@1,000円~承ります。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 中山薬品商会

代表取締役 中山一郎

本社 ☎040-0075 函館市万代町20番10号 PHONE (0138) 40-6275・FAX40-3939
 釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3 PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103
 札幌出張所 ☎065-0031 札幌市北3条東19丁目6番14号 PHONE (011) 299-5493・FAX299-5493

<http://nakayamayakuhin.jp>

北水ブックス刊行

松石 隆(特別会員)

北水同窓会の皆様は、北海道大学水産学部で多彩で魅力的な研究・教育を行っていることを、よくご存じと思いますが、残念ながら、受験を考えている高校生や一般市民の方に、北大水産学部の研究・教育活動が広く知られているわけではありません。

このたび、北海道大学水産学部で行われている研究・教育活動を紹介する「北水ブックス」シリーズが、海事出版老舗の海文堂出版から刊行されることとなりました。

北海道大学水産学部で教鞭を執る研究者が中心になって執筆し、フィールドワークや実学を重視している北大水産学部の研究室が行っているオリジナリティーの高い最新の研究・教育活動の魅力を、ライブ感、わくわく感たっぷりに紹介します。A5判128ページという手頃なサイズで、フルカラーでの印刷になりますので、きれいな写真もたくさん入り、読みやすい一冊となります。本体価格1800円。

第1弾は8月6日に刊行されました。タイトルは「海をまるごとサイエンス ～水産科学の世界へようこそ～」。各章のタイトルと著者は、海に棲む哺乳類に会いにいこう(三谷曜子)／叫びたくなるサケの凄技!：母川刷込の解明を目指す(工藤秀明)／諸事情により海に下らないサケ・マス(清水宗敬)／殖えない魚を殖やしたい：難種苗生産魚種への挑戦(井尻成保)／水中で身体測定：画像処理技術で魚の成長を把握する(米山和良)／動物が好きな人へ：行動生態学をやドカリで紹介する(和田哲)／海面の凸凹は海の天気図(上野洋路)／北極海から氷がなくなる?!(野村大樹)／小さな生き物から地球を知る(松野孝平)／覗いてみようミクロな世界：海の極限環境微生物を科学する(美野さやか)／海の遺



伝子で薬をつくる?!(藤田雅紀)、と水産科学の魅力がぎっしりと詰まった一冊となっています。

第2弾は、企画・編集委員長でもある私が、「出動!イルカ・クジラ110番 ～海岸線3066kmから視えた寄鯨の科学～」(仮題)を執筆中。その後も、定期的に出版予定です。

北水同窓会の皆様には、北水の最新の活動を知っていただきたく、ご紹介申し上げます。また、是非、身近の方々にもお奨めいただければと思います。

詳細は、

<http://www.kaibundo.jp/2018/05/80001/>
または、海文堂出版株式会社 03-3815-3292(販売)にお問い合わせ下さい。

クラス会 報告

「54年振りのクラス会」－北水増殖39会 in SAPPOROの報告－

稲本 恒彦(昭39卒)

1. 経緯

昭和39年卒業以来、増殖学科の札幌在住者は主に札幌で、本州在住者は持ち回りで、それぞれクラス会をしていましたが、昨年、本州勢から「札幌で合同でやらないか」という話があり札幌在住者が幹事を引き受け「北水増殖39会 in SAPPORO」として、昭和39年度卒「増殖学科」全体クラス会を卒業以来54年振りに初めて開催しました。



2. 日程

卒業以来初めての54年振りの全体クラス会ということでもあり、また教養時代を過ごした札幌に全国から時間と費用をかけて折角集まるのだからと2泊3日で実施しました。

日時は、札幌も暖かくなってくる初夏、「よさこいソーラン祭り」直後で前日に札幌入りすれば祭りの最終日で充分楽しめること、また祭りが終わっていて宿の確保が容易だという理由からの6月11日～12日となりました。

3. 参加者

参加者は、本州勢10名と奥様4名、札幌勢6名と奥様1名の計21名でした。当時の増殖学科36名の卒業生のうち、現在皆喜寿を前後する年齢でもあり、ここ数年で鬼籍に入った者と闘病中で不参加の者合わせて十数名もあり、この会が5～6年早かったらと悔やまれたのも



北水増殖39会 in SAPPORO 平成30年6月11日 於 ジャスマックプラザホテル
後列左から佐々木、中津、小林、青山、萩原、関根、柴田、池内、土屋、草刈、福田、中道の各氏 前列左から熊木、山吹、田中、稲本、田中夫人、中津夫人、小林夫人、福田夫人、中道夫人の各氏

事実です。

4. 懇親会

1日目の夜は、「ジャスマックプラザホテル」で懇親会を行いました。記念写真撮影後、会場を移して青山君の言葉で開会、物故者5名の追悼、稲本幹事長による歓迎の挨拶、熊木君の乾杯の音頭で始まり、佐々木君と熊木君の司会で参加者全員の思い出や近況のスピーチ、中道、田中、関根各氏のリードで「北水3歌」(水産放浪歌、北農農寮逍遙歌、都ぞ弥生)を合唱し、柴田君の挨拶と萩原君の万歳、中津君の閉会の言葉で締めくくりましたが、54年振りの再会に濃密かつ夢のような3時間があったと言う間に過ぎていました。その後宿泊者はホテルの天然温泉にゆっくり浸かり疲れを癒やしました。

5. 市内観光と北大構内散策

2日目は、朝から大型バスで「市内観光と北大構内散策」です。まず、「開拓の村」にある「旧恵迪寮」を訪ねました。開拓の村は「野幌森林公園」の一角、54hrという広い敷地に「旧札幌駅三代目駅舎」、「旧開拓使庁舎」など北海道各地の歴史的建造物約50棟が移築・再建されています。ゲートからほど近い場所にお目当ての「旧恵迪寮」があります。木立の中にひっそりと佇む古き木造の寮に多数の若者の青春があったことに思いを馳せつつ悠久の佇まいに深く心を打たれました。

次の目的地「北大」までの時間を利用して、バス内では母校水産学部や札幌に関する「クイズ」で楽しみました。景品は熊木君が取締役会長を務める「バルナバフーズKK」提供のソフトクリームです。答は早い者勝ちで皆大いに盛り上がりました。

「北大構内散策」では、正門からサクシュコトニ川と中央ローン、古河講堂、クラーク像、農学部、旧理学部(現総合博物館)を回ってクラーク会館で昼食など、青春を共に過ごし無数の思い出がある学舎で、54年前にタイムスリップし余りの懐かしさに2時間が瞬く間に過ぎていました。

南門からまたバスに乗り、(エルムトンネル経由)～新恵迪寮～平成ポプラ並木～第一農場と広い北大の敷地を一周し～旧道庁本庁舎(赤煉瓦)(下車)～時計台

クラス会 報告

～テレビ塔～大通公園～旧高等裁判所(現札幌市資料館)～知事公館～近代美術館～北海道神宮～大倉山ジャンプ競技場(下車)、北大植物園と札幌市内を一巡りしました。赤煉瓦や時計台が改修前で見られたのは幸いでした。

「大倉山ジャンプ競技場」では、当初、ジャンプ台横のリフトに乗って頂上へ行き展望台から札幌市内を一望し、かつ間近にジャンプ台を見てその迫力を味わって欲しかったのですが生憎の雨で濡れたリフトには乗れませんでした。代わりにクイズの景品である美味しい「ソフトクリーム」を皆で食べて一息入れました。

6. 札幌ビール園での打ち上げ

夕刻、市内観光終了後、「ホテルルートイン札幌駅前」で荷下ろしし、そのまま「打ち上げ」場所である「札幌ビール園」に向かいました。

「札幌ビール園」では、名物のサッポロビールとジンギスカンを大いに堪能しながら懇親を深め、小林君の「挨拶と1本締め」で「北水増殖39会in SAPPORO」の締めくくりとしました。

7. 脱稿にあたり

この二日間は、54年振りという懐かさと喜びにひたるうち楽しい時間は光速で過ぎ去ってしまいましたが、再会と懇親の中で互いに元気になるという「若返りの妙薬」ともなりました。きわめて充実した日々皆満足してそれぞれ帰宅の途につきました。早速、来年の「39会」の話も出ているところであります。

以上クラス会の報告でしたが、「親潮」の貴重な紙面をお借りできたことに心から感謝し、また同窓の皆様のご健康とご多幸をお祈りし筆をおきます。

北水会愛知県支部新人歓迎会

兼崎 英勝(昭41セ)

新卒者ウェルカムパーティがにぎにぎしく且つ気品に溢れて開催されました。5月12日(土)JR名古屋駅近くの「熱烈的中華 四川菜園」で。会場は神保幹事長に選定頂き感謝一杯です。

主催者側の不安をよそに当日のヒーロー2名が出席してくださいました。その2名とは

【ご紹介1】

だいでうひろき
大洞裕貴君 岐阜県出身

プランクトン講座でアオコの防除
趣味は「ブラジリアン柔術」「釣り」

【ご紹介2】

しん
宮下 仁君 長野県駒ヶ根市

出身 海洋生物科学科
趣味は「車の運転」「釣り」

この二人のスピーチも若武者らしく活力と青春に溢れて新鮮でした。

山口支部長の挨拶でスタートし内田先輩のウェルカムスピーチ、乾杯で一気に会場は弾けて、なごみました。その後、宴に移り野畑先輩(昭24)、深谷先輩(昭36)始め順次、各人が思い思いのスピーチを行いました。

スピーチ中もフリートークで、爆笑有り、質問有り、ガッテン有りで中味の濃い時間帯でした。更に来年5月名古屋にて開催予定の「第99回北水同窓会定期総会in名古屋」を成功させようと確認、誓い合いました。

ラストタイムは恒例により、さらば歌わんかな「水産放浪歌」と豊かに稔れる石狩野を想い「都ぞ弥生」を絶唱し、吠えました。

【嬉しいお知らせ】

NHK名古屋に転入されました女子アナウンサー「村上 由利子」さん(平8ゾ)が来年5月の定期総会の司会進行を自ら引き受けてくださいました。誠に力強い限りです。ありがとうございます。



後列左より
伊藤 62 神保 54 三栗 39 春日井 3 宮本 60 宮下(新人) 稲葉 25
大洞(新人) 山本 18 山口 44 山田 48 野畑先輩 24 は早退
前列左より
早瀬 45 堀場 47 近藤 40 深谷 36 内田 37 藤井 42 兼崎 41
(名前後の数字は卒業年次)

第34回北水会埼玉支部総会 並びに懇親会

福地 光男(昭45ゾ)



後列左から

植田(平11海)、大角(昭62ギ)、中央左から小山(昭29セ)、高橋(昭34エ)、高山(昭37ギ)、若生(昭52ギ)、石黒(昭40セ)、吉川(昭41ゾ)、岩田(昭44食)、吹田(昭49食)、白崎(昭46ギ)
前列左から高野(昭49化)、福地(昭45ゾ)、白井(昭48食)

同級生の皆様、親潮を受け取る度に、埼玉県支部の活動があまり紙面に現れないと思いませんか？埼玉県内には多くの同窓生がありますが、東京への通勤圏ということもあり、都内開催の同窓会への出席が多いようです。しかし、埼玉県支部会は今年で34回を数える総会を継続しています。今回は本支部会の経過等の情報をお届けします。

記録を辿ると当支部会の第1回総会は、卜部快吉氏(昭5漁撈)の発案で、当時埼玉県内に卒業生が多くいた北海製罐(株)が幹事となり、昭和50年4月29日に開催されました。

昭和55年度役員は次の通りです。支部長 卜部快吉(昭5漁撈)、副支部長 三上尚直(昭5ギ)・渡辺國夫(昭26ゾ)、監事 吉田直光(大12セ)・市川忠雄(大15セ)、幹事 石田勲(昭16セ)・市川浩次(昭36セ)

支部総会の開催は一度中断したこともありましたが、平成元年より継続しています。現在は、支部長 吉川晴二(昭41ゾ)と事務局 白井純二(昭48食)です。

平成27年度出席者が5名になり、その時は埼玉支部の廃止も検討しましたが、出席者がいる限り継続することにしました。嬉しいことに最近では若い同窓生、女性の参加もありました。現在名簿上の会員は、270名ほどです。

尚、支部旗は、母校創基75周年記念に協賛して、栗田文雄氏(昭15養)が自ら制作し、ご寄贈されたものです。当時の各支部に贈られております。

さて、経過が長くなりましたが、平成30年2月24日午後4時にJR大宮駅近くの居酒屋「蔵八大宮店」にぞろぞろと集まってきました。付近は怪しげな(?)雰囲気、会場を探している年配者たちが「北水?」と確認をして、やっと会場に辿り着きました。小山氏(昭29セ)を最長老に植田氏(平11海)を最若手として、群馬県からの吹田氏(昭49食)も含め総勢14名が集いました。吉川支部長の開会挨拶、乾杯、そして小山氏のスピーチに続き、参加者全員の近況報告などが行われました。今回会場の都合で水産放浪歌の大合唱が出来ず残念でした。同窓会と言うと現役を退き、他から声もかからず(先輩諸氏には失礼)、年配者の集まりという雰囲気がありますが、埼玉県の同窓会は皆壮健で、いささか異なっており、酒を飲むほどに病気の話などどこ吹く風で、小山氏を始めてとし、まだまだ様々な活躍の自慢話に花盛りでした。小山氏の名刺には「きらめきとふれあいの国際観光都市・函館」の函館観光大使と印刷されており、函館の発展に向け大活躍中です。

あっという間の2時間コース制限時間一杯となり、来年の再会を期し、また女性同窓生の勧誘を期して、午後6時に散会でした。外はこれからが酒場の始まりという雰囲気でしたが、松風町を鳴らした猛者達は家路に向かいました。

北水同窓会青森支部 平成30年総会・講演会・懇親会報告

山口 伸治(昭49化)

青森市は昨年未までは積雪が極めて少なく、年明け後も小雪暖冬をと願っていましたが、期待が大きくはずれまして、降雪量は例年より多く、また、寒さもたいへん厳しい今冬とあいなりました。

さて、吹雪が小休止となった平成30年2月17日(土)、32名の参加者のもと、青森市の「ラ・プラス青い森」にて青森支部平成30年総会・講演会・懇親会が開催されました。



1列目左より

山口伸治(昭49化)、又井一宣(昭37ギ)、菅野溥記(昭37ゾ)、秋葉文和(昭37ギ)、山形實(昭23ギ)、封馬廉介(昭59ギ)、渡邊修一(特別会員)

2列目左より

池田康(昭51ギ)、足助光久(昭40ゾ)、川村俊一(昭56ギ)、伊藤博夫(昭41ギ)、天野勝三(昭54ゾ)、横山勝幸(昭41ゾ)、奈良岡修一(昭47ギ)、原口健二(昭47ゾ)、小谷健二(平13生)、松宮隆志(昭53ゾ)、伊藤良博(昭53ゾ)、松谷紀明(平23増生)、吉田由孝(昭56ゾ)、田澤亮(平19シ)

3列目左より

東野敏及(平11生)、山中崇裕(昭62ゾ)、菊谷尚久(昭59ゾ)、宮部好克(平23資化)、野呂恭成(昭57ゾ)、福田覚(平15博増)、二本柳茂(昭57ギ)、松谷ひかり(平23増生)

総会は、東野敏及幹事(平11生)の司会進行のもと、冒頭、去る2月2日に逝去され角井幸義(ツノユキヨシ・昭20ゾ)様のご冥福をお祈りして黙祷を捧げました。

次に、吉田由孝支部長(昭56ゾ)の挨拶に続き、新入会員紹介と慶事のお知らせ後議事に入り、平成29年収支決算報告及び平成30年収支予算案について承認されました。

また、昨年5月27日、青森市において開催されました第97回(2017年)北水同窓会定期総会は、県内外から総勢73名の参加を得たいへん盛会であったことが報告されました。

さらに、役員改選期にあたり、新支部長に封馬廉介氏(昭59ギ)、他役員9名が選任されました。

講演会では、国立研究開発法人海洋研究開発機構むつ研究所長の渡邊修一様(特別会員)に「これまでのむつ研究所の歩み～地域での研究活動～」のご講演をいただきました。国立研究開発法人海洋研究開発機構の発足当時から今日までの地球規模での海洋研究への取組みと、むつ研究所における地域貢献、具体的には津軽海峡東方海域に特化した海象や海況研究への取組みとそのデータの解析並びに地域への提供

等についてわかりやすくご講演をいただきました。

続いて恒例の記念写真を撮影した後、田澤亮幹事(平16シ)の司会進行のもと、山形實氏(昭23ギ)の乾杯の発声で賑やかに懇親会が始まりました。

32名の参加者一人ひとりからの近況報告を聞きながら、各テーブルでは和気あいあいに親しく懇談しておりました。

最後に参加者全員で肩を組みながら、二本柳茂氏(昭57ギ)の前口上で「水産放浪歌」を、吉田由孝氏の前口上で「都ぞ弥生」を大合唱した後、池田康副支部長(昭51ギ)の力強い三本締めと筆者の万歳三唱で閉会となりました。

平成30年総会にご参加いただきました会員の方々に感謝申し上げるとともに、来年もより多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

北水同窓会釧路支部総会

工藤 伸一(昭54ギ)

平成30年6月16日(土)午後6時より、北水同窓会釧路支部総会が釧路市内の「醍醐」にて行われました。

総会には昨年を上回る20名の同窓が出席し、穂積支部長(昭47ギ)挨拶の後、支部総会を行い事業報告と決算報告が承認されました。その後懇親会は野沢幹事(昭50漁)の音頭で開宴し、その後出席者の自己紹介と近況報告を行いました。

釧路支部は、以前は100名以上の同窓生が存在していましたが、釧路港の水揚げの減少等により次第にその数は減少し、また総会を行っても若い人の参加をなかなか得られず、50歳代以上の同窓生が出席者のほとん



どを占めていました。

しかしながら、今年は平成20年卒～30年卒の3名の若手の同窓が出席し、水産学部の近年の状況や函館市の最近の状況が報告され、総会は大きく盛り上がりました。

支部総会は最後に全員で「水産放浪歌」を歌唱し散会しました。

出席者名簿

穂積 明(昭47ギ)、野沢恒雄(昭50ギ)、
千葉喜平(昭50ゾ)、菅原隆三(昭51ギ)、
工藤伸一(昭54ギ)、高柳志朗(昭55ギ)、
神田雄巳(昭55食)、宮村真介(昭55ギ)、
河北康明(昭56食)、宮園 章(昭58ゾ)、
黒川忠英(昭58ゾ)、大迫典久(昭59ゾ)、
原田裕之(昭60化)、蛭谷幸司(昭61化)、
中多章文(昭62ギ)、森内 学(昭63ギ)、
本間隆之(平元ギ)、小林大佑(平20セ)、
成田 暁(平23海資)、山内泰貴(平30資化)

北水同窓会東京支部総会報告

釜谷 明(平3食)

北水同窓会東京支部総会が平成30年2月5日(月)18時30分よりコートヤード・マリオット銀座東武ホテルにて開催されました。

樋口達夫支部長(昭50食)の挨拶と乾杯の発声で賑やかにスタートしました。

今回は過去最高の160名の参加者により、会場は熱気にあふれかえっておりました。

東京支部総会の面白いところは、毎年半分近くの参加者が変わります。1年振りの再会はもとより、数年振りの再会というのも珍しくなく、お互いの近況を確かめ合っておりました。

途中、毎年恒例となりました「会員活動紹介タイム」と称し、若手参加者による、現在勤めている企業、従事している仕事内容を紹介する時間を設けておりますが、今年は女性2人、黒柳(旧姓沼田)桜子さん(平22海生)、工藤怜子さん(平26海生)によって行われたこともあり、会場の注目を一身に集め、大盛り上がりとなりました。



楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、最後は参加者全員が肩を組み、恒例の「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」の大合唱、加えて元応援団の参加者によるエールが行われ、熱気が最高潮に達したところで、細見典男副支部長(昭48食)による中締めで宴は終了となりました。

次年度の東京支部総会は例年通り2月第一月曜日である2月4日(月)に開催されることが案内されました。

この度の本会開催にあたり、たくさんの商品協賛をいただきました企業様、会の準備運営に多大なるご協力をいただきました幹事及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

末筆になってしまいましたが、東京支部幹事長として10年間本会発展のために尽くされた浜谷一郎さん(昭51化)が今回をもちまして幹事より退かれます。この10年で参加者を2倍にした運営手法は素晴らしいものでした。今後は幹事一同力を合わせ、歩みを止めることなく会の発展に努めていきたいと思っております。ありがとうございました。

30年前の北水第17代応援団大宴会を函館で開催

川邊 一郎(平3ゾ)

「ソオーレ、ソオーレ」。函館駅前の某居酒屋の一室。野太い掛け声の中、生ぬるい液体(焼酎・サッポロソフト)をニヤニヤと飲み干す。嬉しそうな井上英樹(平2ギ)16代団長の自己紹介が始まった。卓を囲んだ参加者が順番に自己紹介していく…。これは翌日開かれる大宴会の事前練習の一コマ。昨年6月、かつての第17代応援団幹部5人が函館に集まった。寄稿まで1年を費やし寝か

クラス会 報告

せに寝かせた原稿お許しを。

昨年、初の女性団長として46代中尾眞子氏が北海道、毎日および函館の各新聞紙上を飾った。「この機会に現役団員を激励しよう」と、17代団長の大浦慎吾(平3ギ)以下、板谷良久(平3ギ)、三角公太郎(平3ギ)、澤田浩二(平3ゾ)と私が集結した。

当初は17代と現役だけの懇親を考えていたが、「コソソリ函館へ来て帰るなど不届き千万」との函館在住の大先輩の方々のお声を戴き、道内外から出席を募り、6月2日に冒頭の内輪での事前練習(飲み会)、3日は昼に食事会、夜は本番の大宴会となった。開催前の準備は函館在住で16代の山本洋一(平2ギ)函館水産高校教諭(当時)に担って戴いた。

2日の事前練習は、函館在住の坂岡桂一郎(平元ギ)、小林直人(平3ギ)、清水宗敬(平3ギ)、工藤秀明(平3ゾ)の4氏と山本教諭ほか福岡から井上団長の11人が出席。1次会終了時には、三角君が北水エールを切った。残念ながら以後は名物・ラーゼンメンを食べたが記憶が無いので割愛。

3日の昼は17代と現役団員と五稜郭の清寿司で会食。元医務室看護師の鶴沼ワカさん、元北晨寮管理栄養士の村木牧子さんにも出席して戴いた。現役団員からは、おしよる丸が実習航海より調査航海が多くなり出港式が限定されていること、飲酒問題から新入生歓迎会などかつてと変わったことを聞いた。鶴沼さんからは草餅や瓦せんべい、バナナの大ごっつあんを戴いた。

食後は中尾団長による水産放浪歌の前口上で絶唱。越田成団員の前口上で都ぞ弥生を熱唱。大浦団長による北水エールで締めた。現役団員たちは夜の部には出



46代目中尾団長(前列左から2人目)らと清寿司にて

席できないとのことで散会。この後、村木さんの案内できれいになった北晨寮を見学した。

函館駅前周辺のバー「杉の子」で行われた大宴会には横浜から田中達也(平元ギ)、住田洋二(平3ギ)の2氏にも出席戴き盛り上がった。プログラムはよく覚えてはいないが多分…。主催者として板谷君が「永久の幸」の前口上を行い、大浦団長の演舞でスタート。来賓として山下成治(昭54ギ)応援団前顧問があいさつ。鶴沼さんの乾杯の音頭で祝宴入り。同店名物のラムハイボールを各人ガバガバと飲み干していく。

前夜の鯨飲で弱っていた三角君が水産放浪歌の前口上を行い、山下前顧問が北水エール、澤田君の本番の北水エールで中締めとなった。お土産に46代Tシャツを配布。誰一人として死人(飲み過ぎ爆睡)を出すことなく収めることができた。このほか前記されていない参加者は前日の練習に参加した方のほか、梶原善之(昭53ギ)、常田貞彦(昭61ギ)、大西広二(平元ギ)、清藤一実(平元ギ)、宮崎永司(平元ギ)、渡野辺雅道(平元ギ)、山本十三(平3ギ)、竹花正朗(平4ギ)、瀧波憲二(平4ギ)、星直樹(平11ギ・応援団顧問)を入れて総計26人。このうち2次会には12人が参加。夜は更けていった。尚、杉の子での写真撮影のシャッターを切ってくれたのは、現在も同店でバイトをしている田中達也君(平30海資、現在修士1年)でした。

最後に、「次回は3年後、今回と同じ6月の第一土曜日に集まろう」と50周年でもなく何の脈略もない日程を約束(?)した。大宴会へご参加戴きました方、差し入れなど応援して戴きました方に紙面をお借りして御礼申し上げます。(尚、冒頭の掛け声は、飲酒を強要するようなものではありません。)

北水同窓会小樽支部総会

梅崎 真大(平10ギ)

平成30年2月9日(金)18時より、「寿司和食しかま」において平成29年度小樽支部総会および懇親会が開催されました。総会では今年度をもってご勇退される大野肇(昭55ギ)支部長並びに平山聡(昭54ギ)副支部長の後任として、木村司(昭61ギ)新支部長と鎌田和幸(昭

和58化)新副支部長の就任や、事務局が小樽水産高校から小樽市役所へ変更になるのに伴う八木勉(平3ゾ)新幹事長の就任等が審議され、参加者の皆様にご承認いただきました。総会の後には懇親会が行われ、ご参加いただいた21人お一人ずつからスピーチいただくなどおおいに盛り上がり、2時間半があつという間に感じられる楽しい酒宴となりました。会の最後は参加者で最も先輩である東廣さん(昭29ギ)の乾杯により閉会となりました。来年度も数多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。



前列左より
藤田征晴(昭31ゾ)、東廣(昭29ギ)、大野肇(昭55ギ)、
小笠原惇六(昭38工)、片桐尉晶(平2ギ)
2列目左より
藤本崇人(平19生)、嘉山雄大(平24海資)、木村司(昭61ギ)、
大田道代(平3ゾ)、梅壽真大(平10ギ)、三宅教平(平16生)、
平山聡(昭54ギ)
3列目左より
古賀英裕(平10ゾ)、松浦光紀(昭44工)、木村勇基(平25資化)、
山本貞夫(昭46化)、鎌田和幸(昭58化)、磯谷揚一(昭49ゾ)、
八木勉(平3ゾ)、斎藤博行(昭47化)、島田英恵(平26海生)

北水同窓会宮城県支部 平成29年度総会が12月2日(土) ホテル白萩(仙台市)において開催

稲田 真一(平15海)

北水同窓会宮城県支部は昨年度、創設80年を迎えましたが、今年度の支部総会は昨年12月2日に仙台市において開催されました。

総会では落合時三郎支部長(昭49ギ)の挨拶があり、事務局から平成28年度の収支決算報告が行われました。その他の役員(幹事)の追加議案も含めすべて了

承されました。

総会終了後には、一昨年度より開催されている同窓生によるミニ講演会が行われました。

今回は高橋清孝氏(昭49ゾ)から「仙台湾～三陸の漁況-暖水性魚類の増加を中心に-」、稲田真一(平15水産海洋)から「宮城の水産業」の演題で話題提供がありました。

懇親会では、佐藤秀雄幹事長(昭42ギ)の乾杯の音頭で開会となり、例年通り各出席者の近況報告が行われました。

最後に佐伯光広氏(平元ギ)の前口上で「都ぞ弥生」と「水産逍遙歌」を全員肩組んで歌い、来年度の再会を約束し散会となりました。



左から1列目
佐藤秀雄(昭42ギ)、安藤省吾(昭32セ)、
落合時三郎支部長(昭49ギ)、藤本俊彦(昭24セ)、
佐々木一弘(昭25セ)
2列目
佐々木久雄(昭47ゾ)、富久尾肇(昭43化)、小池幾世(昭53ギ)、
高橋清孝(昭49ゾ)、北川大二(昭49ギ)、石井達雄(昭45ギ)、
山崎千登勢(環科研)
3列目
稲田真一(平15海)、伊藤貴(昭61ゾ)、菊地朋和(平8ゾ)、
永倉一徳(平3ゾ)、佐伯光広(平元ギ)、奥西武(平7化)、
澁谷和明(平25資化)、金子仁(平18海)、小野寺毅(平2化)

□学位取得者【平成30年3月取得】

清水 武俊	かび臭を産生する有害藍藻 <i>Dolichospermum crassum</i> の細菌を用いた制御に関する研究
鈴木 孝太	噴火湾におけるアカガレイ卵・仔稚魚の時空間分布と生残率の年変動
福井 洋	船舶操縦性能に及ぼす横傾斜影響と4自由度操縦運動モデルの研究
宮下 洋平	浮葉植物ヒシ <i>Trapa japonica</i> を活用したアオコ防除に関する研究
芳山 拓	北海道然別湖における遊漁管理-希少魚の保全と地域振興、釣り人と共に-
和賀 久朋	Spatiotemporal variabilities in phytoplankton and benthic communities in the Pacific Arctic (太平洋側北極海における植物プランクトンおよびベントス群集の時空間変動)
MD. REAZUL ISLAM	Chemical studies on tyrosinase inhibitory and antioxidant activity of bromophenols from Rhodomelaceae algae (フジマツモ科海藻由来プロモフェノール類のチロシナーゼ阻害及び抗酸化活性に関する化学的研究)
川崎 琢真	クロソイ人為繁殖および新規貝類養殖技術開発に関する研究
高 峰	Genome analysis of the alginate degrading marine bacterium <i>Vibrio halioticoli</i> (<i>Vibrio halioticoli</i> のゲノム解析)
張 鐸	Chemical studies on β -glucuronidase inhibition of compounds derived from marine algae (海藻由来化合物の β -グルクロニダーゼ阻害に関する化学的研究)
NOOR YUSLIDA BINTI HAZAHARI	Study on the characteristic oxidative stability of plant and seaweed lipids: Application to Halal alternative ingredients (植物および海藻脂質の特徴的な安定性に関する研究: ハラル食品素材の開発を目指して)
松村 佑太	Hydrogen-producing ability and its ecophysiological roles in vibrios (ビブリオ属細菌の水素生産能とその生理生態学的役割)

□学位取得者【平成30年6月取得】

吉村 美香	タイ王国の水産物流通における個人経営市場の機能
-------	-------------------------



株式会社
竹田食品

代表取締役 竹田寿広

食卓に函館の味を



本 社 工 場 函館市浅野町3番10号
TEL (0138) 43-1110 (代) FAX (0138) 43-1113

札 幌 営 業 所 札幌市中央区北13条西19丁目1番1号 (水産保冷配送センター3F)
TEL (011) 623-0990 FAX (011) 644-9910

竹田食品販売(株) 東京都中央区築地7丁目5番3号 (紀文第一ビル2階)
TEL (03) 6226-6820 FAX (03) 3545-2135

竹田食品販売(株) 宮城県仙台市青葉区本町2丁目9番8号 (日宝ビル5階3号室)
仙台営業所 TEL (022) 772-1970 FAX (022) 722-1987

竹田食品販売(株) 大阪府大阪市淀川区西中島4丁目3番5号 (NLCセントラルビル5階)
大阪営業所 TEL (06) 6307-5311 FAX (06) 6307-5358



□平成29年度 卒業者(学部)・修了者(修士・博士)の就職先一覧

学部

JAいしのみき/あいおいニッセイ同和損害保険(株)/アステラス製薬(株)/石川県漁業協同組合/岩谷産業(株)/兼松(株)/(株)DMM.COM
 (株)KRフードサービス/(株)サンシャインシティ/(株)セコマ/(株)ニチレイロジグループ本社/(株)ニッコー/(株)ニトリ/(株)広島銀行/(株)平和堂
 (株)マルト水谷/(株)ワークスアプリケーションズ/(株)海の中道海洋生態科学館/キャノンシステムアンドサポート(株)/広洋水産(株)
 国立研究開発法人水産研究・教育機構/コメリ(株)/札幌市中央卸市場/札幌市役所/サッポロビール(株)/自営業(農業、実家)
 新日鉄住金エンジニアリング(株)/水産庁/スカパー JSAT(株)/中央コンピューターサービス(株)/東京検疫所/トランスコスモス(株)
 農林水産省/農林中央金庫/パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)/福岡県庁/富士通(株)/北海道庁/(有)園原農場
 横河電機(株)/錬成会グループ/労働基準監督署/ワタバウエディング(株)/一般財団法人札幌市水道サービス協会/前橋市役所
 大槻食材(株)/(株)ノースイ

修士

川崎汽船(株)/静岡県庁/築地魚市場(株)/(株)マンダム/(株)ハイシンクジャパン/(株)ニトリ/(株)アウトソーシングテクノロジー
 日清丸紅飼料(株)/日本製粉(株)/日新興業(株)/富士通(株)/伊藤忠テクノソリューションズ(株)/三菱自動車工業(株)
 三菱スペース・ソフトウェア(株)/一般社団法人日本血液製剤機構/和光純薬工業(株)/六花亭製菓(株)/よつ葉乳業(株)
 ユーシーシーフーズ(株)/三菱ケミカル(株)/マルハニチロ(株)/丸大食品(株)/北海道立総合研究機構/ベルグアース(株)/富士通(株)
 フィード・ワン(株)/日油(株)/八王子市役所/パシフィックコンサルタンツ(株)/農林水産省水産庁/ノーザンファーム(株)/日本ユニシス(株)
 日本製粉(株)/日本水産(株)/東洋冷蔵(株)/東洋水産(株)/東京消防庁/トーアス(株)/中国 上海パナソニック/玉野総合コンサルタント(株)
 タカキタ(株)/ソフトバンク(株)/双日(株)/ゼブラ(株)/住友重機工業(株)/サントリーホールディングス(株)
 国立研究開発法人水産研究・教育機構/群馬県庁/釧路市役所/クオリサイトテクノロジーズ(株)/キリン(株)/協立化学産業(株)
 北見工業大学/カルビー(株)/神畑養魚(株)/(株)ローソン/(株)リングバル/(株)大和ソフトウェアリサーチ/(株)マイナビ/(株)ファーマインド
 (株)日立産業制御ソリューションズ/(株)日本港湾コンサルタント/(株)ニトリ/(株)ニチレイロジグループ本社/(株)東京かねふく/(株)ディーバ
 (株)ソフトウェア・サイエンス/(株)ゼンリン/(株)ゼンショーホールディングス/(株)商船三井/(株)常口アトム/(株)シジシージャパン
 (株)北國銀行/(株)ウエスコ/学校法人龍谷大学/花王(株)/オリエンタル酵母工業(株)/大塚製薬(株)/エア・ウォーター(株)/エースコック(株)
 上村工業(株)/岩手県庁/茨城県庁/いなば食品(株)/味の素冷凍食品(株)/アクセンチュア(株)/MCフードスペシャルティーズ(株)
 iCAD株式会社/ADEKA クリーンエイド(株)/(株)マイクロソフトウェア

博士

岡山大学資源植動科学研究所/千葉県水産総合センター/神奈川県/JSPS特別研究員/ノルウェー・ユニ研究所/中国 広西大学
 中国国立黄海水産研究所

□会員異動

○平成30年3月31日付 退職

中谷 敏邦 大学院水産科学研究院准教授が定年のため退職
今井 一郎 大学院水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職
矢部 衛 大学院水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職
門谷 茂 大学院水産科学研究院特任教授が任期満了のため退職

○平成30年4月1日付 就任・採用

木村 暢夫 大学院水産科学研究院教授が大学院水産科学研究院長に就任
川合 祐史 大学院水産科学研究院教授が大学院水産科学副研究院長に就任
藤森 康澄 大学院水産科学研究院教授が大学院水産科学副研究院長に就任
都木 靖彰 大学院水産科学研究院教授が教育研究評議会評議員(水産学部)に就任
荒井 克俊 大学院水産科学研究院前特任教授が国際連携機構特任教授に採用
河合 俊郎 総合博物館前助教が大学院水産科学研究院准教授に採用
浦 和寛 大学院水産科学研究院前助教が同准教授に採用
別府 史章 大学院水産科学研究院准教授に採用
梶原 善之 水産学部附属練習船おしよる丸前次席一等航海士(准教授)が同特任准教授に採用
長谷川浩平 大学院水産科学研究院助教に採用
高橋 勇樹 大学院水産科学研究院助教に採用
山木 将悟 大学院水産科学研究院助教に採用
趙 佳賢 大学院水産科学研究院助教に採用
田城 文人 総合博物館助教(水産科学館)に採用

お詫びと訂正

前月号『親潮No.310』において誤りがありました、訂正しお詫び申し上げます。

P19 □学位取得者【平成29年9月取得】

誤:山木 将悟 『日本周辺海域における小型ハクジラの食性』

正:松田 純佳 『日本周辺海域における小型ハクジラの食性』

表紙及びP2 □発行年表記

誤:2018 平成30年度

正:2017 平成29年度

関係各位、会員の皆さまに謹んでお詫び申し上げますとともに今後このようなことの無いようにいたします。誠に申し訳ございませんでした。

会員死亡通知

金子 茂 (昭16セ)	平成26年 3月	ご家族様より
太刀川 良三 (昭16セ)	平成30年 6月13日	ご家族様より
若田 隆 (昭19セ)	平成30年 1月26日	ご家族様より
松宮 敏 (昭22ギ)	平成30年 4月30日	市川 渡(昭22ギ)様より
和田 宰 (昭22ギ)	平成29年12月29日	市川 渡(昭22ギ)様より
土田 映二 (昭23教ギ)	平成30年 4月18日	ご家族様より
松本 光丘 (昭24セ)	平成29年 6月25日	ご家族様より
三宅 和夫 (昭24ゾ)	平成29年 8月	ご家族様より
田中 正晴 (昭25エ)	平成30年 2月20日	ご家族様より
中村 清重 (昭25セ)	平成29年12月15日	ご家族様より
山中 勲 (昭26エ)	平成30年 4月14日	ご家族様より
森 静治 (昭29ゾ)	平成29年10月20日	志賀 直信(昭44ゾ)様より
打田 達泰 (昭30セ)	平成30年 2月21日	ご家族様より
川村 久雄 (昭30ゾ)	平成29年 6月	八戸支部様より
吉野 秀男 (昭31エ)	平成30年 3月30日	ご家族様より
星 幸四郎 (昭32エ)	平成30年 4月 9日	杉田 哲夫(昭32エ)様より
秋元 和男 (昭34エ)	平成25年10月25日	ご家族様より
福井 襄 (昭34エ)	平成30年 6月 2日	高橋 守(昭34エ)様より
杉本 政禧 (昭35セ)	平成29年10月31日	ご家族様より
梨本 勝昭 (昭36ギ)	平成30年 3月 1日	学内より
福田 義治 (昭37セ)	平成29年 5月 1日	ご家族様より
西尾 和民 (昭37ゾ)	平成29年10月 3日	志賀直信(昭44ゾ)様より
小泉 恭三 (昭38セ)	平成29年10月24日	ご家族様より
藤原 次郎 (昭39セ)	平成30年 1月23日	ご家族様より
灰野 幸雄 (昭39ゾ)	平成29年 6月20日	赤羽 光秋(昭39エ)様より
高橋 滉 (昭40セ)	平成26年 9月19日	ご家族様より
浅野 尚志 (昭44ギ)	平成30年 5月10日	高橋 裕之(昭59ギ)様より
足立 昌次郎 (昭44化)	平成29年 7月 7日	ご家族様より
氏家 新生 (昭44化)	平成29年 6月23日	ご家族様より
渥美 一興 (昭44ゾ)	平成29年12月 1日	志賀直信(昭44ゾ)様より
伊藤 敏則 (昭47食)	平成29年12月 4日	ご家族様より
高橋 恒人 (昭53食)	平成28年12月10日	ご家族様より
田鎖 睦子 (昭54化)	平成29年12月	ご家族様より
大泉 昇一 (昭61ギ)	平成29年 5月21日	割方 道子(昭61ギ)様より
青山 剛士 (昭61食)	平成30年 6月14日	割方 道子(昭61ギ)様より
伊藤 文乃 (平12生)	平成28年	ご家族様より

親潮投稿規定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

同窓会誌に対する意見、感想などについての投稿とする。個人的な連絡は掲載しない。一つの原稿につき300字までとする。同窓会宛のメール(hokusuialumni@gmail.com)のみ受け付ける。写真は入れられない。

[編集後記]

西日本豪雨をはじめ各地での災害で被害にあわれた会員の方々とそのご家族に心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

平成30年度「親潮」第1号(通算311号)をお届けします。

特集「北水の今」は教育・研究についてのトピックスを扱っております。本号では、2016年度から水産科学研究院主体で日本財団の助成を得て全国の中高生向けに実施している「海の宝をめぐる学びと体験 マリン・ラーニング」に関する記事を関連する教員と事務局の方々に執筆していただきました。現代の若者に「海」の素晴らしさを実感・体験してもらい、さらに自発的に学んでいけるように導くプログラムを北大水産のノウハウと全国各地の同窓会員の方々からのご協力を受けて実施しています。大学生や院生とはまた違った活動の様子が報告されています。また、今号では、飯沼光生氏(平元ゾ)から「ソロモン諸島でのコミュニティ主体の沿岸資源管理の活動支援」のご寄稿をいただき掲載しております。JICAの短期専門家として派遣されている同氏の現地での活動内容が報告されております。

「各種行事開催報告」としては、大阪市で開催された北水同窓会定期総会の模様を掲載しております。また、北大の同窓生が集う「北海道大学ホームカミングデー2018 水産学部卒業生の集い」の告知も掲載しております。今年度は、国立研究開発法人水産研究・教育機構理事 中田 薫 氏(昭56ゾ)のご講演を予定しております。札幌近郊の方々をはじめ、ご都合がつかれる会員の皆様は、是非ともご参加ください。

今年度第2号(通算312号目)の原稿の締め切りは、平成31年1月11日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けておりますので、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い致します。また、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。同窓会誌に対するご意見やご感想などを募集しております。詳しくは上欄に掲載しております投稿規定をご参照ください。

支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://Hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事/工藤 秀明(平3ゾ)

平成30年8月発行

北 水 同 窓 会

〒041-8611 函館市港町3-1-1

TEL & FAX.0138-42-3681

E-mail:hokusuialumni@gmail.com



株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉強

代表取締役社長 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 倫行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F

TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店 〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203 TEL 0178-71-3488

銚子支店 〒288-0051 千葉県銚子市飯沼町186-93 八木友ビル2F TEL 0479-25-8822

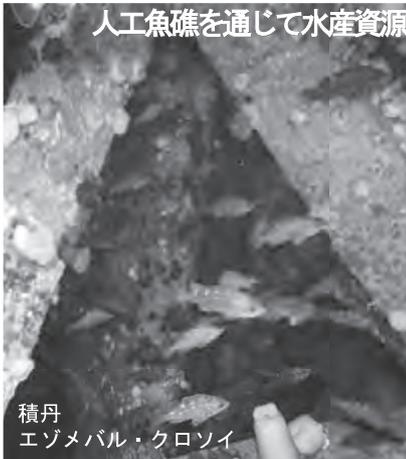
大阪支店 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江3-14-12 イイダビル2-2A TEL 06-6532-8886

福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F TEL 092-401-8828

関連会社 築地:(株)釣十(マグロ仲卸) 中国:大連釣八(水産物加工)

アメリカ・ロスアンジェルス:フィッシングエイト タイ・バンコク:釣八タイランド

人工魚礁を通じて水産資源の保護・増殖に貢献します



積丹
エゾメバル・クロソイ



函館
ウスメバル

海洋土木株式会社

〒104-8139 東京都中央区銀座3-9-1 1
<http://www.kaiyodoboku.com>

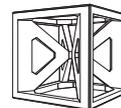
代表取締役 木實谷浩史 (54)

取締役副社長 石井直志 (49)

青森営業所長 山口伸治 (49)

北陸営業所長 魚住昭文 (52)

札幌支店部長 日和久典 (平6)



F.P.魚礁



カルベース付き
FP 1.5G



オクトム

いま豊かな食生活。・・・見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場卸売業者

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役会長 石川 栄一

代表取締役社長 塩谷 康之助

〒030-0183 青森市卸町1番1号(青森市中央卸売市場内)
TEL 017(738)1181 ホームページ: <http://www.aochuu.co.jp>

交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

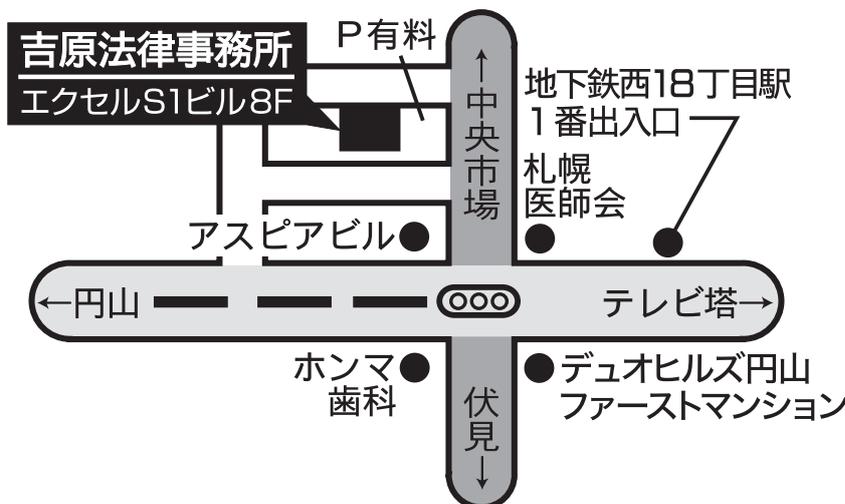
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通) 東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。